



授業情報誌

Class・学び合う授業

第3号 OCT・2017

# class

## 学び合う授業

新潟県中学校  
教育研究会  
授業情報誌  
第3号 2017

第3弾

新潟県中学校教育研究会

授業情報誌 **Class**・学び合う授業  
第3号 2017年10月

ISSN 2189-8111

新潟県中学校教育研究会

### 学び合う授業づくりの情報誌

主体的・対話的で深い学び

“対話的な学び”の質を高める考え方がわかる

教科・領域別の学び合う授業のイメージや手立てを得ることができる

FTや授業ナビで学び合う授業や教師の学び合いを見直すことができる

ISSN 2189-8111

# Class・学び合う授業の内容

「学び合う授業」と「教師の学び合い」の具体的なイメージを伝えることが本誌のねらいです。

- 主体的・対話的で深い学び(学び合う授業)での「対話的な学び」の質を高める考え方や視点がわかります。國學院大學 田村 学様からの特別寄稿。
- 今年度の研究会を実施する指定研究チームが提案する20の“手立て”を紹介します。
- ファシリテーションFTや授業ナビで学び合う授業や教師の学び合いを見直すことができます。



学び合う授業 新潟地区・理科 指定研究会(佐渡市立新穂中学校)2016



教師の学び合い 中越地区・学校保健 指定研究(魚沼市立守門中学校)2017

# class

## 学び合う授業

新潟県中学校  
教育研究会  
授業情報誌  
第3号 2017

## 学び合う授業づくりの情報誌

第3弾

主体的・対話的で深い学び

“対話的な学び”の質を高める考え方がわかる

教科・領域別の学び合う授業のイメージや手立てを得ることができる

フアンリテーション

FTや授業ナビで学び合う授業や教師の学び合いを見直すことができる

# 立ち止まって 学び合う授業を考える

全国学力・学習状況調査にある「仲間との話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできているか。」の本年度の結果は、全国平均64.8%、新潟県72.3%と大きな差が表れました。この項目は、過去3年間で、69.7%→71.7%→72.3%と上昇しています。正答率も全国と同等か上回る結果となり、中教研が「学び合う授業」に取り組んで以降、目に見える成果を示し続けていると受け止めています。また、他県と異なり、正答率が政令市とほぼ同等だったことも、中教研と行政が一体となって取り組んできた成果と考えています。

さて、学び合う授業を推進して5年になりますが、形骸化を防ぐためにも確認しておきたいことが4点あります。

## 1 創刊号にあるように学び合う授業には3つのタイプがあること。

学び合う授業には「教え合い」「交流」「検討」の3つの種類がありました。しかし、公開される授業の多くが、単元の後半、習得した知識や技能をつかって検討する場面となっています。ラーニングピラミッドが示すように知識を習得する場面でも学び合いは有効に作用します。授業中に生徒が獲得途中の知識を説明したり確認したりするアウトプットの場面があれば、学習内容の定着率が一層高まるはずですが、その学び合いも大切にしたいところです。

## 2 支持的風土を醸成するためのグランドルールの徹底を図ること。

前号で、国研の千々布敏弥先生は、「生徒同士が認め合い支え合う関係ができていない学級では、教え合いも話し合いも考え合いもできない。」と述べています。だからこそ、FTのグランドルールの徹底は大切です。○否定しない。○最後まで聞く。○書く、描く等可視化する。○手伝う、協力する。当校ではこの4つのグランドルールの徹底し、対人スキルの向上と支持的風土の醸成を図っています。



新潟県中学校教育研究会  
会長 濱中 力也

### 3 拡散から構造化への時間を十分保障すること。

一人一人の生徒の思考が最も活性化するのが、多様な考えが可視化され、それをフレームワーク等で構造化していく場面です。「正解に近いようだけれど決定打ではないような気がする。どうも納得できない。」このような様々な意見が飛び交っている時間こそが、混沌としているようで生徒の学びが深まっている瞬間であり、ここで安易に誘導したり助け船を出したりしないことがポイントのように思います。この時、少し待つことができるかが学び合う授業の成否を決めるように感じています。

### 4 生徒一人一人の最終的な学びを確認すること。

別の紙面でも述べましたが、新潟青陵大の岩崎保之教授が創刊号で書いているように集団の思考が個人の思考に還元されたかを確認する必要があります。授業の振り返りのポイントとして、獲得した知識や技能と同等に解決した過程や学び方も重要です。この学びが様々な場面で活用できる汎用的な力につながるからです。単元終末での学び方の振り返りを大切にしたいところです。

さて、学び合う授業の最終的な評価は、生徒の学力が向上したかどうかで判断されるべきです。全国学力・学習状況調査やWeb配信問題もその評価材料の一つではありますが、また、数値では図れない解決の過程や学び方の変容の記録などポートフォリオ的な評価も大切にする必要があります。この5年間で当県中学校の授業研究は大きく変容し、各学校においても、FTを用いた研究協議や教科の壁を越えた授業構想検討会が行われるようになりました。また、こうして全国に類のない授業情報誌を発行できること自体が新潟県の誇りであり、教育の質の高さであると考えています。会員の皆様の本情報誌への寄稿に感謝しつつ、指定研究会当日の活発な議論にも大いに期待しています。

## 目次

巻頭言 第3号発刊にあたって 立ち止まって学び合う授業を考える	2
新潟県中学校教育研究会 会長 濱中 力也	
< 指定研究2年目・指定研究1年目 >	6
① 「対話的な学び」の質的向上 — 特別寄稿 —	
〈特別寄稿〉	
「対話的な学び」の質的向上	8
國學院大學人間開発学部 教授 田村 学	
② 各指定研究チームが提案する汎用的能力育成の手立て	
国語	
学び合う言語活動の工夫で学びを深め、汎用的能力の育成を！	16
県中教研 国語部 全県部長 竹内 学	
テキストに基づく対話的な学び合いで、汎用的な言葉の力を育てる！！	18
妙高市中教研 国語部	
言葉に着目して読みを深める ～段階的な意見交流で主体的に多面的に！！～	20
南魚沼郡市中教研 国語部	
自ら問いを立て、仲間と検討・共有する活動で能動的な読みの姿勢を促し、 読解力・思考力・判断力を育てます	22
新潟市中教研 国語部	
思考ツールを使って、読みを構造化することで、確かな読みの力を育て、 思考力、表現力を高めます！	24
五泉市・東蒲原郡中教研 国語部	
数学	
「数学的な見方・考え方」を働かせる授業の実現を！	26
県中教研 数学部 全県部長 宮 宏之	
KOB活動で、主体的な学びの充実を！！	28
柏崎市・刈羽郡中教研 数学部	
一人一人が自分の考えをもつ課題設定で、より深い学びへ！！	30
見附市中教研 数学部	
「ずれが生じる問題」と「ずれを顕在化する問題提示」で、互いに問いを 共有し、数学的表現力を高める！	32
新潟市中教研 数学部	
ホワイトボードを使って求め方をまとめ、互いに説明し合い、理解を深める！	34
村上市・岩船郡中教研 数学部	
美術	
～発見と発想を生み出す工夫～ 鑑賞活動と創作活動を一本の線上にして、 「学び合う授業」を位置づけよう	36
県中教研 美術部 全県部長 古田 修	
“美術独自の学び合い”で自信と意欲を高める	38
上越地区中教研 美術部	

職人技に触れ、伝統工芸のすご技を学び合おう !!	40
加茂市・南蒲原郡中教研 美術部	
表現と鑑賞を関連付けて、対話や深まりを生み出す ～立体造形～	42
新潟市中教研 美術部	
「地域美術館の活用」「語り合いと発表の場の設定」で高める鑑賞力・表現力	44
新発田市中教研 美術部	

## 道徳

道徳教育の量的確保と質的転換を図り、「特別の教科 道徳（道徳科）」で、道徳的価値の自覚を深め、自立した人間として他者とともにによりよく生きるための道徳性を養う	46
県中教研 道徳部 全県部長 比後 慎一	
『思考が変化していくモデル』に基づく「考え、議論する道徳」を目指した授業づくり	48
上越市中教研 道徳部	
主体的に考え、議論する授業で、自己を見つめ、多面的・多角的に考える生徒を育成する	50
長岡市三島郡中教研 道徳部	
“4段階スケール”での議論による、道徳的価値の自覚の深まり !!	52
新潟市中教研 道徳部	
道徳は、よりよい自分の生き方を考える時間だ !!	54
阿賀野市胎内市北蒲原郡中教研 道徳部	

## 総合的な学習の時間

実社会や実生活の中から解決すべき課題を設定する !	56
総合的な学習の時間部 全県部長 大橋 英喜	
地域の人と共に貢献活動をFTで練り上げる !	58
柏崎市刈羽郡学校教育研究会 生活科・「総合」研究部	
多様な学習活動を展開することにより、学び合いの深化を図ります !	60
長岡市中教研 総合学習部	
3年間で段階的に地域と関わる防災学習 !!	62
新潟市中教研 総合学習部	
学習の成果を評価、助言し合い、自他の考えを広げ、深める !!	64
二市・北蒲中教研 総合学習部	

## 3 指定研究 1 年目の進捗状況

社会	67
理科	68
英語	69
音楽	70
学校保健	71

## 4 授業ナビゲーション 学び合う授業をつくるために必要な研究・研修 学びのプロセスとFTの基本プロセス

県中教研 授業ナビゲーション	73
学び合う授業をつくるために必要な研究・研修 学びのプロセスとFTの基本プロセス	80
新潟県中学校教育研究会 事務局長 山内 伸二	

編集後記	83
------	----

新潟県中学校教育研究会 理事長 玉木 浩

1年目、2年目で計40郡市が指定を受け、40の研究チーム(研究推進委員会)が「教科・領域における学び合う授業の具現化」を目指し、研究を推進しています。

### 指定研究 2年目

教科・領域	推進郡市	研究推進責任者		会場校(会場)	研究会日
国語	妙高	田中 裕子	妙高市立妙高高原中学校	妙高市立新井中学校	10月26日(木)
	南魚沼・南魚	柴田 恵理	南魚沼市立六日町中学校	南魚沼市立塩沢中学校	11月28日(火)
	新潟	長嶋 茂	新潟市立東石山中学校	新潟市立山の下中学校	11月 2日(木)
	五泉・東蒲	囲 由香	五泉市立五泉中学校	阿賀町立阿賀津川中学校	11月10日(金)
数学	柏崎・刈羽	土田 貴宏	柏崎市立鏡が沖中学校	柏崎市立松浜中学校	11月 8日(水)
	見附	倉田 孝英	見附市立見附中学校	見附市立今町中学校	11月27日(月)
	新潟	田村 友教	新潟市立白新中学校	新潟市立横越中学校	11月 2日(木)
	村上・岩船	青山 亮	村上市立村上第一中学校	村上市立山北中学校	11月 7日(火)
美術	上越	太田 聡子	上越市立直江津中学校	上越市立城西中学校	11月14日(火)
	加茂・南蒲	近 まどか	加茂市立加茂中学校	加茂市立葵中学校	11月14日(火)
	新潟	石井 隆浩	新潟市立鳥屋野中学校	新潟市立曾野木中学校	11月 2日(木)
	新発田	片桐 洋子	新発田市立東中学校	新発田市立第一中学校 (蕨谷虹児記念館・新発田市民文化会館)	10月17日(火)
道徳	上越	笠原 里美	上越市立直江津東中学校	上越市立頸城中学校	10月26日(木)
	長岡・三島	大橋 立明	長岡市立北中学校	出雲崎町立出雲崎中学校	11月10日(金)
	新潟	嵐田 浩二	新潟市立白根北中学校	新潟市立木崎中学校	11月16日(木)
	阿賀野・胎内・北蒲	小林 典子	胎内市立黒川中学校	聖籠町立聖籠中学校	11月15日(水)
総合的な 学習の時間	柏崎・刈羽	小松 久子	柏崎市立南中学校	柏崎市立北条中学校	10月27日(金)
	長岡・三島	渡邊 健実	長岡市立東北中学校	長岡市立中之島中学校	11月22日(水)
	新潟	関根 立志	新潟市立山の下中学校	新潟市立松浜中学校	11月 8日(水)
	阿賀野・胎内・北蒲	内山 秀実	胎内市立乙中学校	阿賀野市立水原中学校	11月21日(火)

### 指定研究 1年目

教科・領域	推進郡市	研究推進責任者		会場校
社会	柏崎・刈羽	関野 道也	柏崎市立東中学校	柏崎市立西山中学校
	長岡・三島	高橋 信之	長岡市立江陽中学校	長岡市立旭岡中学校
	燕・西蒲	井上 北斗	弥彦村立弥彦中学校	燕市立吉田中学校
	阿賀野・胎内・北蒲	新井 達夫	胎内市立乙中学校	胎内市立築地中学校
理科	糸魚川	阿部 信貴	糸魚川市立糸魚川東中学校	糸魚川市立糸魚川中学校
	三条	京野 隆	三条市立第一中学校	三条市立大崎中学校
	新潟	広野 尚子	新潟市立金津中学校	新潟市立小新中学校
	阿賀野・胎内・北蒲	小林 寿	阿賀野市立笹神中学校	阿賀野市立笹神中学校
英語	上越	神戸 邦子	上越市立直江津中学校	上越市立安塚中学校
	十日町・中魚	大矢 寿和	十日町市立十日町中学校	十日町市立松之山中学校
	新潟	高田 哲也	新潟市立寄居中学校	新潟市立新津第一中学校
	新発田	桜井 洋子	新発田市立本丸中学校	新発田市立加治川中学校
音楽	上越	岩澤 正顕	上越教育大学附属中学校	上越市立雄志中学校
	長岡・三島	岡村 真由美	長岡市立旭岡中学校	長岡市立南中学校
	新潟	熊木 勘治	新潟市立新潟柳都中学校	新潟市立小新中学校
	阿賀野・胎内・北蒲	遠藤 明子	胎内市立築地中学校	阿賀野市立安田中学校
学校保健	上越	花溪 章子	上越市立直江津中学校	上越市立吉川中学校
	魚沼	佐藤 ひとみ	魚沼市立湯之谷中学校	魚沼市立守門中学校
	新潟	松本 恵	新潟市立松浜中学校	新潟市立亀田西中学校
	五泉・東蒲	木村 美恵子	五泉市立川東中学校	五泉市立五泉北中学校



# ① 「対話的な学び」の質的向上

---

## 特別寄稿

國學院大學人間開発学部 教授 田村 学 様（前文部  
科学省教科調査官）から寄稿をいただきました。

県中教研がすすめる学び合う授業の具現化に向け  
て、「主体的・対話的で深い学び」の中の、特に「対  
話的な学び」の質の向上について、有益な示唆を得  
ることができます。



〈特別寄稿〉

# 「対話的な学び」 の質的向上



國學院大學人間開発学部  
教授 田村 学

## 1. 資質・能力を育成する「主体的・対話的で深い学び」

生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会において生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」を一人一人の子供に育成していくことが求められる。そのためにも、学びの過程において、実社会や実生活と関わるリアリティのある真正の学びに主体的に取り組んだり、異なる多様な他者との対話を通じて考えを広めたり深めたりする学びを実現することが大切になる。また、単に知識を記憶するだけにとどまらず、身に付けた資質・能力が様々な課題の対応に生かせる事を実感できるような、学びの深まりも大切になる。

こうした「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、学習過程を質的に高めることが必要であり、アクティブ・ラーニングの視点による授業改善が、以下のように求められている。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に想像したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

## 2. アクティブ・ラーニングの視点による授業改善

先に示した三つを踏まえて、アクティブ・ラーニングの視点による授業改善のポイントを明らかにすれば、以下(1)~(3)のように考えることができる。

## (1) 「主体的な学び」

「主体的な学び」については、授業の導入における課題設定の場面と終末における振り返りの場面に注目にしたい。

子供は、実生活や実社会とつながりのある具体的な活動や体験を行うことによって意欲的で前向きな姿勢となる。まずは、リアリティのあるクオリティの高い課題設定が欠かせない。それらに加えて、学習活動の見通しが明らかになり、学習活動のゴールを鮮明に描くことも大切となる。実際の学習活動を展開していく際には、見通しがあることにより、学びが連続し、発展していくことが期待できる。

一方、振り返りは、自らの学びを意味付けたり、価値付けたりして自覚し、他者と共有していくことにつながる。この振り返りが、学びの成果を実感させ、確かな手応えを生む。このことこそが、新たな学びに向かう主体的な姿を具現していくことにつながる。

振り返りには大きく三つの機能がある。一つは、学習内容を確認する振り返り。二つは、学習内容を現在や過去の学習内容と関係付けたり、一般化したりする振り返り。もう一つが、自己変容を自覚する振り返りである。それぞれを発揮し、自ら学ぶ姿を具現するためにも、文字言語による表現で、確かに認識することなどを大切にしたい。

## (2) 「対話的な学び」

「対話的な学び」については、異なる多様な他者との学び合いを重視することが大切になる。こうした学びは、学習のプロセスを質的に高めていくとともに、他者と力を合わせた問題の解決や協働による新たなアイデアの創造に結び付くものとして期待されている。

「対話的な学び」を実現し、相互作用によって子供の学びが豊かになるためには、次の三つに配慮したい。一つは、子供がどのような知識や情報を持っているかである。二つは、そうした知識や情報をどのように処理するかである。比べたり、関連付けたりして子供は知識や情報を処理して新しい考えを生成していく。三つは、どのような成果物を期待しているかである。相互作用によって生成される考えや、対話を行うことのねらいを明らかにして、豊かに広がる学習場面を構成することが大切になる。

## (3) 「深い学び」

「深い学び」については、これまで以上に学びのプロセスを意識することが求められる。問題を解決するプロセス、解釈し考えを形成するプロセス、構想し創造するプロセスなど、教科固有のプロセスを今まで以上に充実するようにしたい。なぜなら、学習のプロセスにおいては、それまでに学んだことや各教科等で身に付けた知識や技能を活用・発揮する学習場面を頻繁に生み出すことが期待できるからである。

「深い学び」を実現するためには、身に付けた知識や技能を活用したり、発揮したりして関連付けることが大切になる。だからこそ、明確な課題意識をもった主体的で文脈的な学びで知識や技能のつながりを生むことが必要であり、情報としての知識や技能を対話によってつないで再構成することなどが重要となる。また、学習活動を振り返り、体験したことなど収集した

情報を既存の知識と関連付け、自らの考えとしてまとめたり、それを自覚したり共有したりすることも大切になる。

### 3. 活用・発揮による「深い学び」と資質・能力

先に示した三つの学びの姿は、個別バラバラではなく、一体となって現れる姿であることは、先の記述からも明らかであろう。また、どの視点も欠かすことのできない重要なものであり、それぞれが実現を目指すべき学びの姿と考えることが大切である。しかしながら、「深い学び」については、「主体的な学び」「対話的な学び」に比べて分かりにくさがあるとの指摘もある。

2. (3)に記したとおり、「深い学び」は学習過程としてのプロセスが大切なポイントになる。例えば、生活科において資質・能力を育成する学習過程は、好奇心や探究心、対象への興味や親しみ、憧れなどからくる「やってみたい」「してみたい」「できるようになりたい」といった自分の思いや願いをもち、そのために具体的な活動や体験を行い、直接対象と関わる中で感じたり考えたりしたことを表現したり、行為したりしていく過程と考えることができる。総合的な学習の時間では、「①課題の設定」→「②情報の収集」→「③整理・分析」→「④まとめ・表現」の探究の過程としてイメージすることができる。これらの学習過程は、各教科等によって違いがあり、例えば、社会科のような問題発見・解決のプロセス、国語科のような解釈・形成のプロセス、図画工作科のような構想・創造のプロセスなどと整理することもできる。

「深い学び」とは、子供たちが習得・活用・探究を視野に入れた各教科等固有の学習過程の中で、それまでに身に付けていた知識や技能を存分に活用・発揮し、その結果、知識や技能が相互に関連付けられたり、組み合わせられたりして構造化し身体化していくことと考えることができる。その結果、より深く理解することに至り、異なる状況でも活用できるものとなり、好ましい方向に向けて安定的で持続的なものとして育成され確かになっていく。具体的には、次のように考えることができる。

「知識及び技能」については、各教科等で習得する「知識及び技能」が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されるようにすることが大切である。具体的な事実に関する知識、個別的な手順に関する技能に加えて、複数の事実に関する知識や手順に関する技能が関連付けられ、統合されることによって概念として形成される。

「思考力、判断力、表現力等」は、「知識及び技能」が未知の状況において自在に活用できることと捉えることができる。具体的には、身に付けた「知識及び技能」の中から、課題の解決に必要なものを選択したり、状況に応じて適用したり、複数の「知識及び技能」を場面に応じて組み合わせたりして、自在に活用できるようになっていくことを「思考力、判断力、表現力等」が育成された状態と考えることができる。

「学びに向かう力、人間性等」についても、よりよい生活や社会の創造に向けて、自他を尊重すること、自ら取り組んだり異なる他者と力を合わせたりすること、社会に寄与し貢献することなどの適正かつ好ましい方向に「知識及び技能」が活用できるようになることと考えることがで

きる。

新しい学習指導要領においては、「知識及び技能」が構造化されたり、身体化されたりして高度化し、適正な態度や汎用的な能力となって駆動する状態となるよう身に付いていくことこそが重要なのである。

#### 4. 「対話的な学び」の価値と質の向上

「深い学び」に比べて「対話的な学び」がイメージしやすいとは言うものの、「ただのおしゃべりとなっている」「どうすればしっかりとした学びとなるのか」といった心配や問題が顕在化している。先に記したように、三つの視点は一体となっていることから、表面的なペアの話し合いや形だけのトリオの意見交換などを、ただ行っていけばよいというわけではないことを押さえるべきであろう。やはり、「深い学び」を意識することが欠かせないのである。

諮問文の段階では、アクティブ・ラーニングは「主体的・協働的な学び」となっていた。そこでの「協働的」とは、異なる多様な存在が力を合わせて何か一つの目的に向かっていくことをイメージさせた。一方「対話的」は、「協働的」に比べて、やりとりが行われ、言語が介在し、自らの思考を通して認識に至ることとイメージすることができる。「対話的」と表現することで、学習活動として期待しているものを一層明確に示したと考えることができよう。

この「対話的な学び」については、一昨年8月の教育課程企画特別部会「論点整理」においては、「他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める」ものとされていた。それが、中央教育審議会での議論の中で、「子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める」と記述が変わっていった。子供同士で話し合ったり、協力して考えを生み出したりするだけでなく、様々な人とやりとりするという空間的な広がり、先人の知恵を文献で学ぶという時間的な広がりを意識した学びを指向していることが理解できる。

「対話的な学び」については、次の二つの面から必要性を整理することができる。

一つは、「対話的な学び」が行われることで、「主体的な学び」に向かう姿が生まれてくることである。対話は、双方向の相互作用である。私たちは、自分の考えが相手に伝わり、相手がそれを受け入れてくれることに喜びを覚える。「対話的な学び」には、私たちが自ら行いたくなるような特質が内在していると言える。

もう一つは、「対話的な学び」によって、物事に対する深い理解が生まれやすくなることである。他者とのやりとりを通して、自分一人で行き届くよりも多様な情報が入ってくる可能性がある。また、相手に伝えようと自分で説明することで、自分の考えを確かにしたり、構造化したりすることにつながる。さらには、「対話的な学び」を通して、一人では生み出せなかったアイデアが生まれ、新たな知がクリエイトされたりするよさがある。

このように三つの学びの視点は分けられるものではなくて、一つの豊かな学びということと考えれば、「友だちと話し合っているけど、先生にやらされているだけで全然おもしろくない」と

子供が考えていたり、楽しそうに話し合っている、期待する内容へと深まっていなかったりするようでは、期待される「対話的な学び」とは言えないことになる。「対話的な学び」によって、学習内容としての資質・能力が育成されているか、学習事項が深く理解されているか、学習活動に前向きに取り組んでいるかなどが検討されるべきであろう。

また、「対話的な学び」というと、どうしても教室の中での学びというイメージになりがちである。しかし、子供の学びは教室でクラスメートとともにあるだけではなく、空間的に広げることも考えられる。様々な人とのやりとりによって子供が獲得する情報はより多様になるはずである。また、時間的に広げるという意味では、先人が知見を文字などによって表している文献や書籍、教科書などから学ぶことも、重要な「対話的な学び」と考えるべきである。目の前の子供同士で話をするだけではない、多様な「対話的な学び」のイメージを持つことが、学習をより確かなものに高めていくはずである。

加えて言えば、子供同士の「対話的な学び」については、毎時間行わなければならない、ということではない。しかし、これまであまりにも子供が受動的に学ぶ教師主導の授業を行っていた傾向のある中学校や高等学校においては、「対話的な学び」の時間を一定程度、単位時間や単元の中に位置付けることは欠かすことのできない必須の要件とも言えよう。

## 5. 「対話的な学び」における教師の役割

こうした「対話的な学び」では、教師はどのような役割を担うのだろうか。

一言で言えば、教師は子供の学びの促進役になると考えたい。一方的に教師が話していた授業に学び手同士の対話を取り入れるのだから、子供同士のやりとりを活発にするのが教師の重要な仕事ということになる。いわゆる、ファシリテーターである。教師中心の授業から、学習者中心の授業となるように、教師が発想を転換しなければならない。しかし、学習者中心だからと言って教師が明示的に指導することを否定するものではない。必要に応じて知識や技能を伝達していくことも大切な教師の役割であることを忘れてはいけない。学習者中心とは、子供が期待する学習に向かって本気になって真剣に立ち向かっていくような質の高い学びを実現することなのである。

こうした質の高い子供の学びを実現するためには、学びの場の状況や環境を整えることが重要である。人数によって対話の在り方は異なる。また、誰と話すかによっても変わる。もちろん、どこで行うかでも変わってこよう。それらの状況や環境をどう整えるかで、子供の学びが質の高いものとして具現されるかどうかが決まってくる。ただ単に賑やかに話し合いをしていけばよいというわけではない。そうした整える状況の中には、「子供が持っている情報」「子供が行う処理方法」「子供が生成する成果物」を明確にし、学習内容との適合を図ることも含まれる。そして、そのことこそが、質の高い「学び合い」を実現する鍵となることから、特段の配慮が必要となろう。

「学び合い」として、「対話的な学び」を推進していくための手掛かりは、まずは発話者数、発話数などの学級全体の発話量になる。多くの子供が活発に話し合うことは、ファーストステップとして重要である。しかしながら、意識すべきは発話の質であろう。子供の発言が、周囲の子供

の発言、これまでの議論とつながっているかどうか。これは「学び合い」の質を語る上で重要なポイントとなる。

そのためにも、教師の側には、子供の学びを受け入れつなぐ姿勢が求められる。子供が学びの中で発している言葉や行為を、教師は受容することが大切である。そのことが、活発に学ぶ子供の姿を具現していくことにつながる。さらに言えば、子供の発言を受け入れながら、教師が子供の学びの価値付けをし、つながりや結び付きを明らかにしていく。学びの意味を評価し、即座に子供にフィードバックしていくのである。そうすれば、子供に自らの学習活動の意味や価値が伝わり、それは手応えとなり、納得を伴った次の学びへと向かっていくことになる。

したがって、教師は、子供がどのような学びの状況にあるのかを見取ることができなければならぬ。かつての一方通行で教師中心のチョーク&トークの授業では、子供の学びを見取ることができなくても何とかやってこれた。しかし、これからは学習者である子供が主体である。「どんな思いを持ち、どんなことに関心があるのか」「現在の知識の獲得の状況はどのようなか」「どのようなことを考えているのか」と教師が子供の学びを丁寧に見取ることが求められる。それができなければ、アクティブ・ラーニングの視点による授業改善は難しく、これからは、今まで以上に見えにくいものを見取る教師力が求められると考えることができる。

見えにくいものを見取るためのポイントとしては、次の三つがあげられる。

一つは、見取るための尺度、いわゆる評価規準を持つこと。「この授業で子供たちにこうなってほしい」というイメージがはっきりとあれば、目の前の子供の状況が十分かどうかがよく見えるようになる。なかには「子供の多様な姿を認めるから、規準はなくてもよい」「最初は真っ白な状態で子供を見ましよう」という声もあるが、それは難しい。

二つは、時間軸で子供の姿をつなぐこと。「昨日はあんな発言だった子供が、今日はこんな発言に変わった」「先週取り組んでいた活動が、今日の授業ではこうやっている」など、子供の学びを時間軸で捉えつなぐと、子供の思考の具体や変化、学びへの意欲を見取ることができる。

三つは、空間軸で子供の姿をつなぐこと。授業中には、様々な子供の姿が現れる。子供の学びは、子供の姿となって現れる。それは、発言、ノート、絵、表情、身体の動かし方など、実に様々である。そうした子供の姿を関連付けると、見えにくい思考の様子、意欲の実体が見えてくる。

見えにくいものを見取ることは、子供の内面を捉えようとすることであり、ある程度は教師が推論せざるを得ない。妥当性や信頼性の高い、確かな推論を目指していると考えられるべきであろう。

こうした見取るための三つの工夫を繰り返し行っていくことで、確かな教師力が身に付いていく。そのことが、学びを促進する「次の一手」を、確実に、しかも学び手の目線で実施することにつながる。と同時に、見えにくかった子供の学びが見取れるようになることは、教師にとってはとても嬉しいことであり、日々の実践への大きなモチベーションとなることも間違いないだろう。

こうした教師力を全ての教師が身に付けられるのか、難しいのではないか、という不安や心配の声もある。しかし、多くの教師は、子供を育てることに強い情熱を持っている。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて取り組むことは、子供の成長の姿を目の当たりにすることでも

ある。目の前の子供の成長こそが、教師としての本質的な願いであり、その思いが触発されることによって、新しい授業を創造する教師としての営みにつながっていくはずである。結果として、多くの教師に確かな指導力が身に付くと、私は考えている。

さらには、学習指導が適切に行われることで、学級経営がより一層うまくいくという相乗効果も期待できる。日頃の授業で多様な存在を認め合うことや、自分と異なる意見を知ることで自らの考えが深化し発展したという経験などが、豊かな学級経営につながり、その学級風土がまた次の学習の実りを上げていく。「なかよしで前向きなクラスは結果が出る」という経験は、誰にもあるのではないか。自ら学び、ともに学ぶ集団であればあるほど、結果や成果は高く出ることが期待できる。

## 6. 授業をイノベーションする「対話的な学び」

「対話的な学び」については、小学校低学年から高学年、中学校、高校と学校種が上がるにつれて、いくつか変わる要素があると考えられる。

その一つは人数。最初はペアやトリオの話し合いで精一杯かもしれない。学年が上がるに従って四人、五人と増え、大勢での話し合いができるようになる。内容も、具体的なものから抽象的なものになり、シンプルなやりとりから複雑な込み入った議論ができるようになる。発達に即して活性化していく「学び合い」のイメージと、発達段階に応じた「学び合い」の在り方を意識しておく必要がある。

中学校や高等学校においては、これまで十分に行われてこなかった傾向のある「対話的な学び」をいかに質の高いものとして実現していくかが問われている。そうした授業のイノベーションに対する期待は高い。「対話的な学び」は、新しい学習指導要領を具現する確かなきっかけになる。「対話的な学び」に込められた意味や価値、背景を理解し、その質的向上に向けた着実な実践を期待したい。

### 【参考文献】

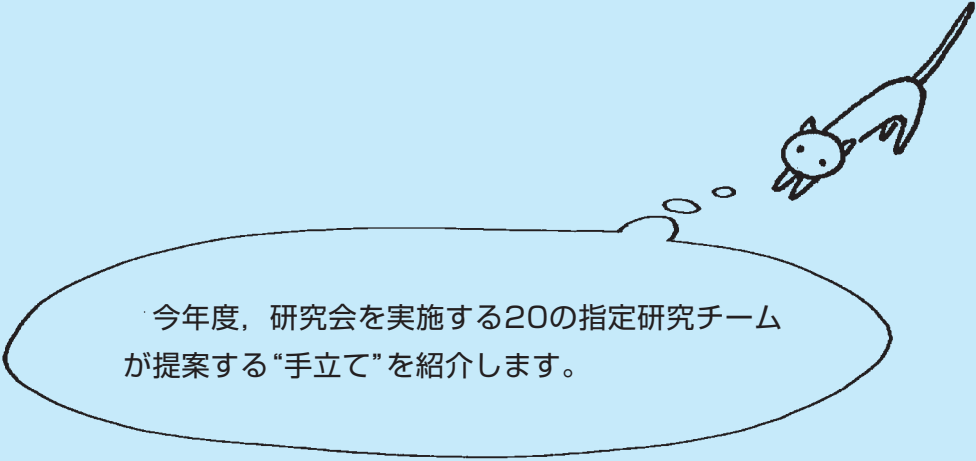
- ・「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」（中央教育審議会平成26年11月20日）
- ・「教育課程企画特別部会における論点整理について（報告）」（教育課程企画特別部会平成27年8月26日）
- ・「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会平成28年12月21日）
- ・拙著「カリキュラム・マネジメント入門」東洋館出版社 平成29年3月

### 【プロフィール】

新潟大学教育学部卒、上越教育大学附属小学校教諭、柏崎市教育委員会指導主事、国立教育政策研究所教育課程調査官、文部科学省教科調査官、同視学官などを経て現職。



## ② 各指定研究チームが提案する 汎用的能力育成の手立て

A simple line drawing of a cat in mid-air, jumping towards a large, horizontal oval thought bubble. Three small circles lead from the cat to the bubble. Inside the bubble, there is Japanese text.

今年度、研究会を実施する20の指定研究チーム  
が提案する“手立て”を紹介します。

# 国語

## 学び合う言語活動の工夫で 学びを深め、汎用的能力の 育成を！



県中教研 国語部 全県部長  
上越市立直江津中学校 竹内 学

国語は、日本人の思考力や想像力、表現力の基盤となる言葉を学ぶ教科です。国語の学習を通して、言語能力を磨くことが、生きて働く資質・能力の育成の基盤となります。言語を駆使した生徒同士の学び合いの中で学びを深めることで言語能力が高められます。

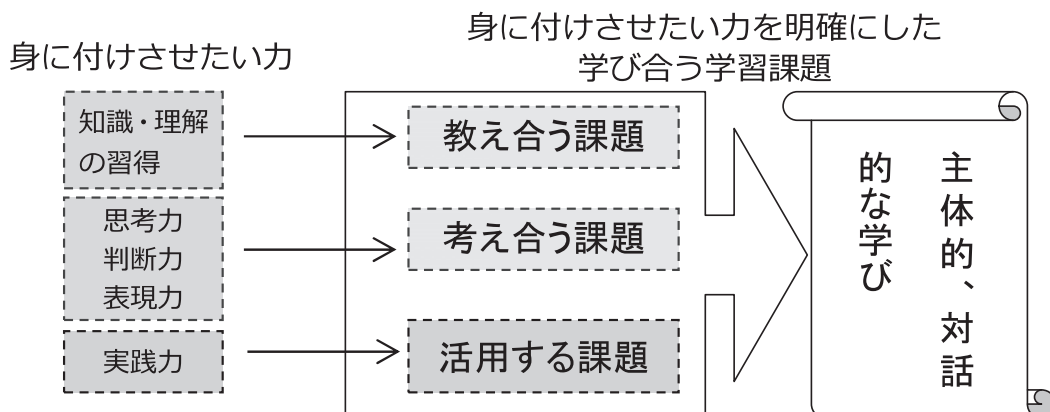
そのために、次の2つのポイントを押さえた授業づくりを提案します。

### ポイント1 身に付けさせたい力を明確にした学び合う学習課題を用意する。

千々布敏弥先生のお言葉によれば、学び合いは「子どもの力を活用した授業」であり、「子どもが共に教え合うことで習得すべき事項を確実に学び、少し難しい課題について共に考えることで思考力、判断力、表現力を身に付けている。教え合うべき課題、考え合うべき課題を用意することができれば、子どもは自発的に学び合う

ようになるであろう。」とあります。

子どもにどのような力を付けさせるのかを明確にもち、何を学ばせるかに焦点づけて学習課題を用意する必要があります。それは出来合いのものでもよいのです。学び合いが有効となる学習課題であれば、子どもたちは自然と、主体的に対話しながら、学びを深めていくはずで



## ポイント2 主体的、対話的な言語活動を展開して、一人一人の学びを深める。

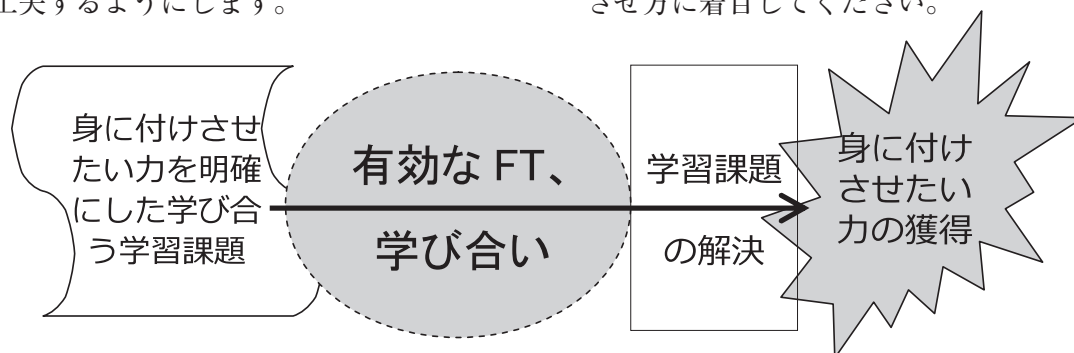
すでにポイント1でも述べましたが、学び合いが有効な学習課題であれば、子どもたちは主体的に対話しながら学びを深めていきます。

そこで大切になるのは、「学び合いのさせ方」ということになります。

どのような学び合いの手法が、身に付けさせたい力を明確にした学習課題の解決にふさわしく、また目標とする力の育成に有効なのかを、学習課題の設定段階から構想し、学習形態や手立てを工夫するようにします。

各地区では、常にテキストに着目しなければならない学習課題で、個から小集団や全体へ、全体から小集団や個へ、小集団から全体や個へと、学習形態を工夫しながら、段階的に読みの交流、比較、検討、議論、振り返りなどの活動を意図的に仕組んでいます。

子どもたちの思考を活性化させ、主体的で対話的な学び合いを実現しようとする工夫が見られます。ぜひ、各地区の学習課題と学び合いのさせ方に着目してください。



## 国語 重点方針

言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育てるために、話す・聞く、書く、読む力を育み、学ぶ意欲をもって学習する国語の学習指導に努める。

- 学び合う言語活動を通して、考えを広げたり深めたりし、思考力や想像力を育てる。
- 考えを明確にし構成を考えて文章を書く力を育てる。
- 話の内容や意図に応じた表現力を育てる。
- 目的に応じて主体的に文章を読み、内容を的確に読み取る力を育てる。

## 国語 学び合い10

①	生徒の理解・認識の把握	生徒個々の学習状況に基づいて授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解度や表現力の実態を把握し、単元単位で目標や指導計画を立てている。
③	魅力ある課題の設定	生徒の興味関心を喚起し、学習意欲を高める課題を設定している。
④	学習形態の工夫	ねらいと実態に応じた、個別・ペア・班・全体等の適切な形態を取り入れている。
⑤	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑥	学び合いを支える言語事項の充実	漢字、文法、語彙、語句の用法、記述の方法等の理解・定着を図っている。
⑦	正確な理解と適切な表現	根拠を明確にして、自分の考えを形成し、論理的、想像的に表現する学習場面を設定している。
⑧	豊かな言語感覚の育成	文体や文脈中の語句が醸し出す味わいに注目して読み取ったり、表現したりする学習場面を設定している。
⑨	日常生活や社会生活との関連	日常生活や社会生活との関連を図って学習を進めている。
⑩	言語活動の充実	ねらいに応じた言語活動を通して、考えを広げたり深めたりするよう工夫している。

# 国語〈上越地区〉

## テキストに基づく対話的な 学び合いで、汎用的な 言葉の力を育てる！！



妙高市中教研 国語部

研究推進責任者(左) 妙高市立妙高高原中学校

田中 裕子

会場校担当(右) 妙高市立新井中学校

堀田 加奈子

その教材で身に付けることができる「汎用的な言葉の力」は何か、という視点から教材を研究し、テキストにこだわった課題を設定します。三つの対話的な学び合いにより、生徒が自分の思いや考えをより深め、広げることを目指します。(※テキスト…教材等における表現ととらえています)

### 手立て設定の理由

国語の授業での学びは、生徒にとっては何ができるようになったかがはっきりしない漫然としたものになりがちです。そこで、「身に付けさせたい汎用的な言葉の力」を明確にして、生徒自身が自分の学びを自覚できるような指導過程を工夫し、さらに学んだことを生かせるような場を設定すれば、「生きて使える国語の学び」にできるのではないかと考えました。

### 手立てのメリット

- ① テキストにこだわる課題で、生徒は根拠のある意見や考えをもつことができます。
- ② 対話的な学び合いで、思いや考えが深まり広がります。
- ③ 学んだことが「生きて使える言葉の力」として意識されるようになります。

### 手 立 て

授業で学んだことを、生徒が自分の言語生活で生かせるように指導過程を工夫します。

#### ステップ1

そこで身に付けさせたい「汎用的な言葉の力」を明確にし、テキストにこだわった課題を設定する。

#### ステップ2

三つ(テキスト・他者・自己)の対話的な学び合いから、深い学びへ導く。

#### ステップ3

自分の思いや考え、「汎用的な言葉の力」の深まりや広がりが意識できる場を設定する。

### ! ここは気をつけよう!

学び合いの場面でよく活用されるホワイトボードは、生徒の考えを引き出ししたり整理したりするには有効なツールですが、それを見せて発表するには字が小さすぎますし、学習の足跡も残しておけないので、発表段階ではツールの工夫が必要です。また、学び合いの課題の設定については、意見が拡散しすぎないように何について意見を交換するのかが明確になるように、「ポイントをしぼる」ことが大切です。

また教科の垣根を越えた「話し合いのルール」を設定することや、親和的な学習集団づくりを図ることなど、各教科担任や学級担任とも協力しながら指導に取り組むことが重要です。

## ステップ 1

身に付けさせたい「汎用的な言葉の力」を明確にしたうえで、テキストにこだわった課題づくり

- 教材を、「ここで身に付けることができる『汎用的な言葉の力』は何か」という視点で分析します。
- 「テキストにこだわる課題」については、下のようにとらえています。
  - ※その課題を追究・解決するために、繰り返しテキストに立ち返ることを必要とするような課題。
  - ※テキストを根拠として、自分の思いや考えを表出でき、他者との交流を必要とするような手応えのある課題。

「握手」(光村図書3年)なら、例えばこんな課題はどうでしょう。

- 「握手」のレビューを書いて、自分の作品への見方を明確にしよう。

## ステップ 2

三つ(テキスト・他者・自己)の対話的な学び合いによる深い学びへ

テキストとの対話

自己との対話

※十分にテキストと対話することで、生徒は自分の読みにこだわりをもちます。



他者との対話

自己との対話

※自分との相違点からテキストに立ち返って考え直したり、共通点により自信を深めたりします。



自己との深い対話

※他者との対話で繰り返しテキストに立ち返りながら自分の考えを深め練り上げます。



## ステップ 3

自分の思い・考えの変化の自覚と意識化

- 初読の読みと最終の読みを比較することで自分の思いや考えの変化(広がり・深まり)を自覚し、意識化することによって次のようなことが起こります。
  - 意見交流の有用性を認識します。
  - 自分の思いや考えをよりよく伝えたいという思いが高まり、自分の言語生活を見つめ直す姿勢につながります。
  - 身に付けさせることを目指した「汎用的な言葉の力」を活用できる場面に出会ったとき(意図的に出会わせ)、学習したことを生かしたり活用したりできます。



### 指定研究会情報

#### 上越地区(妙高市中教研)国語教育研究発表会

◇研究主題：テキストにこだわる課題で対話的な学び合いを促進し、汎用的な言葉の力を育てる

本研究の根幹は、汎用的な言葉の力を高めることを視点とした教材研究による「テキストにこだわる課題」の模索です。これまで研推メンバーで練り上げてきた課題による対話的な学び合いの授業を公開します。新学習指導要領の示す方向と重なる部分が多いので、これからの授業づくりの参考にさせていただけると考えています。

◇月 日：10月26日(木) ◇会場校：妙高市立新井中学校

◇公 開：2学級 2年 「走れメロス」 授業者 宮川 美奈子  
3年 「作られた『物語』を超えて」 授業者 川合 礼

◇指導者：上越教育大学大学院 学校教育研究科 准教授 佐藤 多佳子  
妙高市教育委員会 こども教育課 指導主事 江口 克也

# 国語〈中越地区〉

## 言葉に着目して読みを 深める ～段階的な意見交流で 主体的に多面的に !! ～



南魚沼郡市中教研 国語部

研究推進責任者(左) 南魚沼市立六日町中学校

柴田 恵理

会場校担当(右) 南魚沼市立塩沢中学校

田村 千鶴子

学習課題について、多面的に考察し、納得解を作り出す過程を大切にすることで、作品のもつ奥深さを実感することにつながります。

### 手立て設定の理由

段階的に他者との意見交流の場をもつことによって、教科書の叙述や他者の言葉に着目して根拠が述べられる、確かで深い読みを生徒の学び合いの中で目指します。そのため、力を合わせて言葉にしながら考える手法として、知識構成型ジグソー法の手法を取り入れていきます。

### 手立てのメリット

- ① どの表現をどう解釈したか明確になり、言葉への着目度がUPします。
- ② 読みの根拠と観点が増え、生徒の多様な考察が生まれます。
- ③ 自分自身の読みをもう一度確認でき、「読みの深まり」が実感できます。

### 手 立 て

知識構成型ジグソー法を使って、読みの根拠と観点を増やす。

#### ステップ1

「今わかっていること」を意識化し、一人で自分の考えを形作ります。

#### ステップ2

「段階的な意見交流(エキスパート・ジグソー・クロストーク)」で、学習課題と向き合います。

#### ステップ3

ホワイトボードや板書の記録を生かし、「読みの深まり」を整理します。



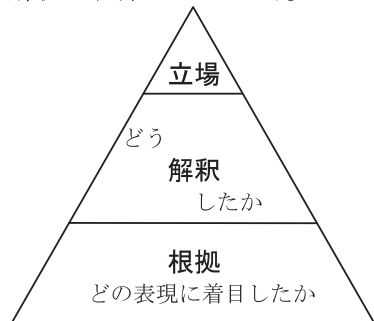
### ここは気をつけよう！

読みを深めるための学習課題と追究するための観点の設定、思考をまとめるための構造化の方法が重要です。学習課題は、生徒の反応をもとに、話し合う必然性があるものを設定します。追究の観点は、学習課題の答えに期待する要素となるものを複数提示します。そして、ホワイトボードや板書の記録は、論点が明確になるように構造化します。

## ステップ 1

1人で

作品の叙述に着目しながら、  
解釈を言葉にしていく。



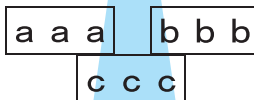
どの叙述をどう解釈した  
か、意識化することで、着  
点が明確になり、ステップ2  
での検討や助言を可能にし  
ます。

## ステップ 2

グループで

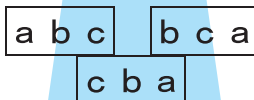
エキスパート活動

同じ観点を追究する者同  
士で考えを強化。



ジグソー活動

異なる観点を追究したも  
のを持ち寄り、学習課題に向  
き合う。



クロストーク

グループごとの答えと根  
拠を発表し、考えを深める。

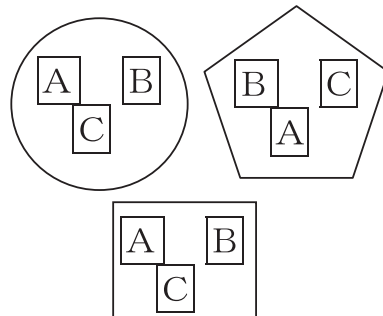


全体での意見交流を生かし  
ながら、多面的に考察します。

## ステップ 3

1人で

読みの深まりを整理。一人一  
人が再度、作品に向き合い、自  
分なりの読みをまとめ直す。



ホワイトボードや板書の記  
録を活用して、思考を整理し  
ます。

【参考文献『協調学習デザインハンドブック 知識構成型ジグソー法を用いた授業づくり』  
東京大学発教育支援コンソーシアム推進機構】

### 指定研究会情報

#### 新潟中越地区（南魚沼郡市中教研）国語教育研究発表会

◇研究主題：言葉に着目し、読みの広がり、深まりをうながす授業  
～協働的な学習を通して～

同じ課題をもつ班での話し合いでは、教科書の叙述に着目しながら、自分の「立場」や「根拠」を明確にし、表現できるように学習します。本時は、異なる課題を検討した者と話し合い、読みの観点を増やし、自分の考えとの関連を考えながら理解を深めます。

◇月 日：11月28日（火） ◇会場校：南魚沼市立塩沢中学校

◇公 開：1学級 1年 「少年の日の思い出」 授業者 小林 亮介

◇指導者：中越教育事務所 指導主事 上村 みほ

## 国語〈新潟地区〉

自ら問いを立て、仲間と検討・共有する活動で能動的な読みの姿勢を促し、読解力・思考力・判断力を育てます



新潟市中教研 国語部

研究推進責任者(左) 新潟市立東石山中学校 長嶋 茂  
会場校担当(右) 新潟市立山の下中学校 伊藤 篤志

生徒それぞれが関心をもった部分に対して、問いを立て、仲間と検討・共有し、協働的な解決を図ることで、能動的な読む姿勢を促し、読解力・思考力・判断力を育てる。

### 手立て設定の理由

従来の、教師から問いかけられたり、課題を与えられたりして「読まされる」授業から、子どもたちが自ら問いを立て、仲間と共有することで、自分なりの課題意識をもち、能動的に読んでいく力(態度)を育む授業にしていくことができると考えた。

### 手立てのメリット

- ① 個々の読み方によって様々な問いが生まれる。
- ② 様々な視点から文章を読むきっかけとなる。
- ③ いろいろな解釈を知ることによって、自分の考えが広がり、深められる。

### 手 立 て

個々に立てた問いを検討・共有して自分の問いを見出す。

#### ステップ1

本文を読み、疑問や矛盾点をもとに個々に問いを立てる。

#### ステップ2

個人又は班で問いを検討・共有して集類し、追究課題を立てる。

#### ステップ3

追究課題を個→集団→個という流れで解釈する。

### ! ここは気をつけよう!

読む力には個人差があり、それぞれが立てる問いもその違いによってレベルが違ってくると予想される。授業では、個々の問いを大切にするとともに、出てきた問いを個人そして仲間と検討・共有することで、多様な読み深める視点に気づかせる。そして、改めて自ら問いを選択させることで「自ら読む」意識を高めさせたい。



## ステップ 1



### ◎個々の問いを出し合う。

- ・わからない所，疑問点，違和感をもった所，矛盾を感じた所などをもとに，疑問の形で問いを立てる。
- ・問いを立てる観点（生徒が問いをつくるきっかけとなる短い文・言葉など）を与え，そこから触発されて浮かんできたことや関連した問いを出す。

## ステップ 2



### ◎集類した問いを検討・共有し，追究課題を立てる。

- ・個々に問いを集類（グルーピング・ラベリング）する。
- ・集類したものを見て，関連性について個々に分類・整理する。
- ・班の形になって自分の考えで分類・整理した内容を伝え合う。又は，与えられた観点に基づき，問いを検討する。
- ・個人又はみんなで考えたい，読み深まりが期待される問いを選び，追究課題を立てる。
- ・自分がさらに追究してみたい問いを選ぶ。

## ステップ 3



### ◎追究課題を解釈する。

- ・本文と格闘し，個々に自らの追究課題を解決する。  
(個)
- ・共通する問い，類似する問いをもつグループで解釈について意見を交換する。  
(集団)
- ・学級全体の問いとし，解釈を議論する。  
(集団)
- ・集団で検討した解釈を参考にして，自分の考えをまとめる。  
(個)

## 指定研究会情報

### 新潟地区（新潟市中教研）国語教育研究発表会

◇研究主題：自ら問い立て，仲間と検討・共有することによる能動的な読みの向上

与えられた課題による「読まされる」授業ではなく，自ら問いを立て，仲間と共有し，協働的な解決を図る学習活動を構成することで「自ら読む」意識を高め，読む力・思考力・判断力の向上を促します。

◇月 日：11月2日(木) ◇会場校：新潟市立山の下中学校

◇公開：1学級 2年 「走れメロス」 授業者 芳賀 勇雄

◇指導者：新潟大学大学院教育学研究科 教授 小久保 美子

## 国語 〈下越地区〉

思考ツールを使って、読みを構造化することで、確かな読みの力を育て、思考力、表現力を高めます！



五泉市・東蒲原郡中教研 国語部

研究推進責任者(左) 五泉市立五泉中学校

困 由香

会場校担当(右) 阿賀町立阿賀津川中学校

佐藤 和代

内容を構造化し論理的に読み取るために、「思考ツール」を取り入れ、確かな読みの力を育てます。

### 手立て設定の理由

「説明的文章」の読みの力を付けるために、「思考ツール」を使い、内容の構造化を図ることで、筆者の主張や論の進め方を構造的に理解できると考えます。

### 手立てのメリット

- ① 内容を整理することで、文章を構造化することができます。
- ② 内容を比較・検討することで、共通点や相違点が明確になったり、それを関連づけたりすることができます。
- ③ 交流の仕方を工夫することで、交流が活性化し、読みが深まります。

### 手 立 て

思考ツールを使い、思考スキルを高める。

#### ステップ1

思考ツールを使って文章内容を整理します。

#### ステップ2

思考ツールを使って、読み取った内容を比較・検討します。

#### ステップ3

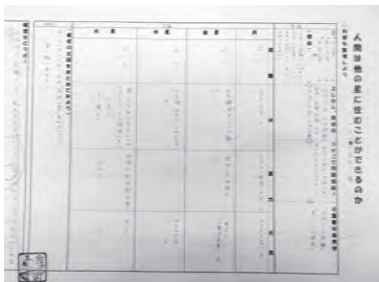
可視化しながら、考えを交流します。



### ここは気をつけよう！

考えの進め方や考えをイメージさせる手順や図式となる「思考スキル」について、何のために、どんな思考ツールを使って、何をするのか、目的をしっかりと持ち、最適な思考ツールを選ぶことが大切です。

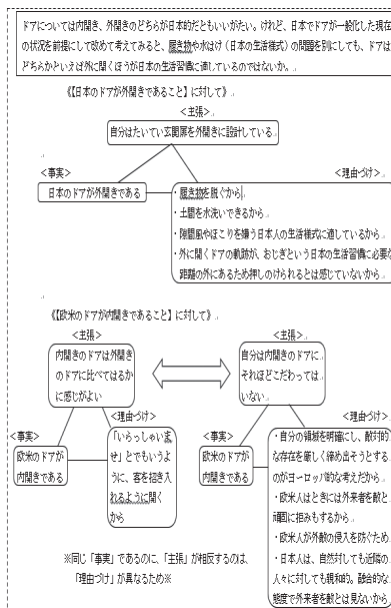
## ステップ 1



### ○文章内容を整理する。

思考ツールを使い、情報量の多い説明的文章の内容を整理しながら、段落相互の分類化や、事柄の重要度や難易度を付けるなどの順序づけをすることで、文章を構造的に捉えます。

## ステップ 2



### ○読み取ったことを比較・検討する。

思考ツールを使うことで、考える方向性が明確になり、複数の事柄の相違点や共通点を見つけることができます。それを、比較・検討しながら、筆者の主張に迫ります。

## ステップ 3



### ○可視化しながら考えを交流する。

ねらいに応じた交流の形態と手法を取り入れます。また、考えを可視化するための工夫や交流の目的を明確にして、交流のルールや方法を具体的に提示します。

## 指定研究会情報

### 下越地区（五泉市・東蒲原郡中教研）国語教育研究発表会

◇研究主題：確かな読みの力を身に付ける生徒の育成

思考ツールを使って内容を構造化して読み取ることで、読者を納得させることができる例示の仕方について、その効果を考え、確かな読みの力を育て、思考力、表現力を高めます。

◇月 日：11月10日(金)

◇会場校：阿賀町立阿賀津川中学校

◇公開：1学級 2年 「動物園でできること」 授業者 佐藤 和代

◇指導者：福島大学

教授 佐藤 佐敏

阿賀町教育委員会 管理指導主事 中原 広司

# 数学

## 「数学的な見方・考え方」を働かせる授業の実現を！



県中教研 数学部 全県部長  
長岡市立旭岡中学校 宮 宏之

今回の学習指導要領の改訂では、教科等を学ぶ意義が議論され、その中核をなすものとして、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」が示されました。

生徒が「数学的な見方・考え方」を働かせることによって、数学を学ぶ意義を味わう、そんな「学び合う授業」の実現を目指していきましょう。そのためのポイントを2つ紹介します。

### ポイント1 生徒が取り組みたくなる、魅力ある課題を設定する

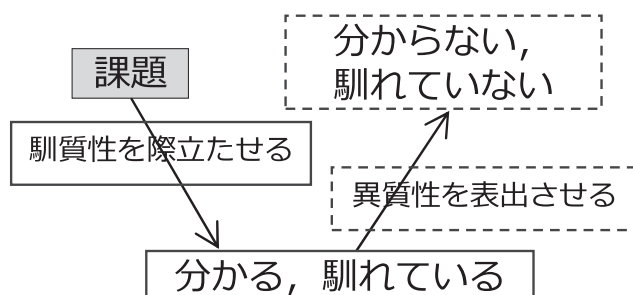
生徒が「数学的な見方・考え方」を働かせるには、まずは取り組みたくなる、魅力ある課題の設定が必要です。

その際に、馴質異化・異質馴化のどちらの手法を使うかを意識して課題を設定しましょう。

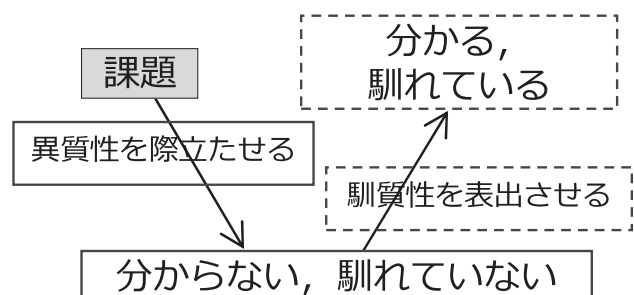
馴質異化とは、「生徒がわかる・馴れていると思っている教材に対して、わからない・見慣

れていない点があることを意識させる手法」であり、異質馴化とは、「生徒がわからない・見慣れていないと思っている教材において、わかっていたり、見慣れているものにかかわっている側面があることを意識させる手法」です。

生徒に「思い当たる節」があると感じさせることで、課題が魅力あるものになると考えます。



A 馴質異化



B 異質馴化

## ポイント2 数学的価値(特徴・本質)につながる「ゆるい収束(構造化)」を目指す

県中教研では、ペアやグループ等で考えを出し合う「拡散」と、たくさん出た意見を整理し、構造化したり、価値付けたりする「収束」とをきちんと分けるよう提案しています。

数学の授業においては、このことを踏まえた上で、「拡散」を正しいことだけを求めるのではなく、意味のある誤りを含むものにしましょう。

また、「収束」については、優劣を付けたり、選択したりというきつい「収束」にせず、違いを認めたり、学習を振り返ったり、位置付けたりする、ゆるい「収束」にしていきましょう。

そうすることによって、数学的価値の深い理解につながるとともに、「数学的な見方・考え方」を働かせた「学び合う授業」になると考えます。



### FTの基本プロセス(県中教研)

### 数学的価値につながる収束を

<引用・参考文献>

金子忠雄監修・酒井勝吉・長谷川浩司著(1989)『対話と探求を深める 数学科授業の構築』教育出版

## 数学 重点方針

数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、数学的な見方・考え方のよさを実感できるようにし、それらを活用して課題解決に主体的に取り組むことができる学習指導の展開に努める。

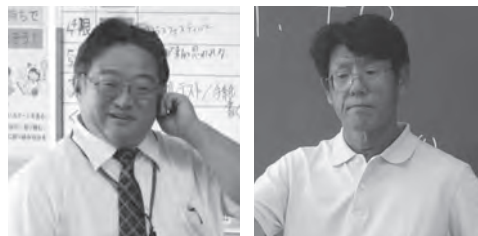
- 基礎・基本の習熟を図るとともに、それらを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力を育成する。
- 生徒の認識とのずれや適度な困難度がある課題で学び合う学習を計画的に実施する。
- 生徒自らが学習の振り返りができるように、学び直しの機会を設ける。

## 数学 学び合い10

①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態やつまづきを把握して授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位で目標や指導計画をたてている。
③	必要感・達成感のある課題	生徒の認識とのずれや適度な困難度がある課題を出している。
④	ペア・グループによる学習	ペア学習や3～5人によるグループ学習を取り入れている。
⑤	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑥	生徒どうしに関わりあう場	発表会で終わらず、生徒どうしに関わりあう場を取り入れている。
⑦	家庭学習の充実	授業と関連付けて課題を出したり、点検をしたりしている。
⑧	原理や法則との関連	数学の原理や法則との関連を意識させる授業を行っている。
⑨	日常生活や社会との関連	日常生活や社会との関連を図って学習を進めている。
⑩	図・表・式等の言語活動の充実	生徒の考えを図・表・式等の数学的表現で表す言語活動の充実を図っている。

# 数学〈上越地区〉

## KOB活動で、 主体的な学びの 充実を!!



柏崎市・刈羽郡中教研 数学部

研究推進責任者(左) 柏崎市立鏡が沖中学校 土田 貴宏  
会場校担当(右) 柏崎市立松浜中学校 柴野 健彦

個で取り組む活動 (K), 同じ解法を共有する活動 (O), 別の解法を共有する活動 (B) を設定することで主体的な学びの充実を図ります。

### 手立て設定の理由

グループ活動において、学習内容の定着が不十分なことから自分で考えずに周りの考えを写すことがあります。また、話し合いが深まらずに会話が止まってしまうことがあります。

そこで、KOB活動を行うことで、次のメリットがあります。

#### 手立てのメリット

- ① 考え方や方向性が見え、解法の道筋が整理されます。
- ② 自信をもって、説明できるようになります。
- ③ 複数の解法を知り、新たな課題に取り組む意欲を高めます。

### 手 立 て

KOB活動で、解法に納得できるようにする。

#### ステップ1…(K)

導入課題と本課題を関連し、課題を共有する。

#### ステップ2…(O)

同じ解法で集まり、共通点、相違点を共有する。

#### ステップ3…(B)

別の解法で集まり、一般性、特殊性を共有する。

### ! ここは気をつけよう!

いくつかの活動形態があるため、1時間を通して活動できる課題の設定、時間配分を明確にするとよいです。また、全員が話し合える学級の雰囲気づくりを行うとそれぞれの活動が効果的になります。

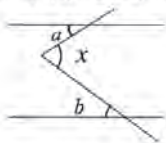
## ステップ 1

### 個で取り組む活動 (K)

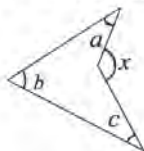


### 2時間の授業を関連する題材

1時間目 (平行線に折れ線のある角度の問題)



2時間目 (フーメラン型の図形の角度の問題)



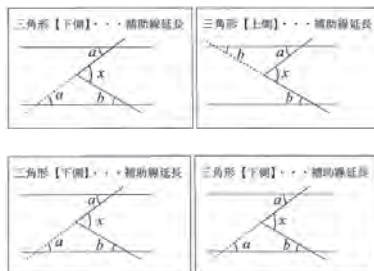
日常生活に関連する題材、2時間の授業を関連する題材で課題を考えると意欲が高まったり、継続したりします。

## ステップ 2

### グループ活動 (O)



### 1つの班に同じ補助線



・わかりやすい補助線, 考え方を確認する。

複数の同じ解法を比較し、自分の解法の不安な部分や疑問点が解決します。

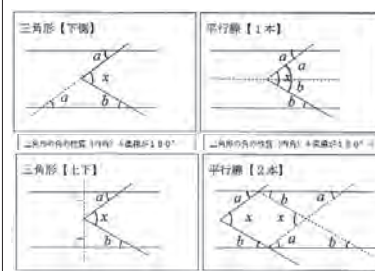
見通しをもって、別の解法の人に説明できるようになります。

## ステップ 3

### グループ活動 (B)



### 1つの班に別の補助線



・人数に偏りがある場合は、同じ解き方が2, 3人になる。

2つのグループ活動を通して、納得のできる解法を選択します。

確認問題を納得した方法で解くことにより、自分で解けた達成感をもてるようになります。

## 指定研究会情報

### 上越地区 (柏崎市・刈羽郡中教研) 数学教育研究発表会

◇研究主題：表現力を高めるための学び合い活動の工夫

～課題設定と話し合い活動の工夫で、主体的に学ぶ場面の充実を！～

平行線と角の授業の小単元末で、平行線のある角度の問題を、KOB活動で行います。1つの問題について、個の活動 (K)、グループ活動 (O：同じ解法の集団) で表現力を培い、グループ活動 (B：別の解法との集団) で表現力を養う授業を予定しています。

◇月 日：11月8日(水) ◇会場校：柏崎市立松浜中学校

◇公開：1学級 2年 「図形の性質」 授業者 中川 拓也

◇指導者：上越教育事務所 指導主事 中澤 和仁

# 数学〈中越地区〉

一人一人が自分の考えをもつ課題設定で、より深い学びへ!!



見附市中教研 数学部

研究推進責任者(左) 見附市立見附中学校 倉田 孝英  
会場校担当(右) 見附市立今町中学校 原 聖治

適切な課題を設定することで、生徒一人一人が自分の考えをもつことができ、多様な考えが出て、生徒同士の対話が成立し、数学的に考える資質・能力の向上につながります。

## 手立て設定の理由

数学的に考える資質・能力を高めるには、学習課題を「知識・技能」の側面からだけでなく「思考力・判断力・表現力等」の側面から授業を再構築する必要があると考えました。そのためにも、授業の流れを工夫してみました。

### 手立てのメリット

- ① 適切な課題は、今までの学習内容を一層深く学び直しすることができます。
- ② 授業者にも生徒にも授業の流れが明確なことはUD的にも重要です。
- ③ 課題内容と時間の保障が交流・教え合いから検討につながります。

## 手 立 て

数学的に考える資質・能力を高める授業の流れの工夫

### ステップ1

適切な課題設定（難易度・思考力・多様性）。

### ステップ2

授業の流れの明確化。

### ステップ3

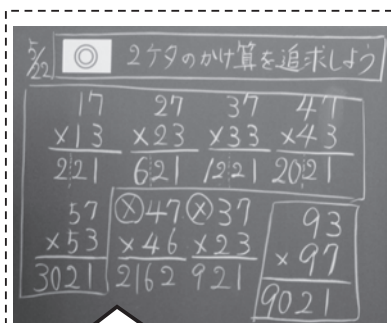
生徒同士の対話場面の保障（意見の検討・議論）。

## ! ここは気をつけよう!

グループでの学習場面では、1人の意見が班全体の意見となり、他の生徒は「ただ乗り」状態になるケースが目立ちます。そうさせないためには、ジグソー法やワールドカフェ、ポスターセッションなどの手法で、「自分が理解しておかなければならない」という状況に「追い込む」ことが重要であると考えます。



## ステップ 1



【課題】 十の位の数が等しく、一の位の数之和が10になる2ケタの自然数同士の積は、一の位の数積に、十の位と十の位に1加えた数の積の100倍を加えたものになることを文字を使って証明しよう。

課題設定の視点に、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3本の柱を考えると多様な課題を設定することができます。

Web配信テストなどを活用し、生徒にとっての困難度を勘案し、適度なレベルの課題を提示します。

## ステップ 2

問題の設定



個人で考える

(自己の考えの決定)



生徒同士の対話

(意見の交流・議論)



振り返り

(自己の考えの再構築)

生徒が、目的意識をもって、自ら問題を設定することで、その解決のために新しい概念や原理・法則を見いだすことができます。

教師は、思考力、判断力、表現力等を身に付けたり、統合的・発展的に考えて深い学びを実現したりすることが可能となるよう授業の流れを工夫します。また、その意図を教師と生徒が共有することも重要です。

## ステップ 3



個人で考える



生徒同士の対話



考え方の可視化

「答え合わせ」程度の対話でなく、生徒の考えを他の生徒と検討し、議論できる学習環境を整備します。そのためには、課題そのものが「拡散」し「構造化」できるものであるか十分吟味します。また、それぞれの考え方が可視化されるための思考ツールなどを整備し、効率よく行えるよう工夫します。

### 指定研究会情報

#### 中越地区（見附市中教研）数学教育研究発表会

◇研究主題：数学的思考力を高める授業の工夫  
～対話と振り返りを重視した活動を通して～

生徒の数学的活動への取組を促し思考力、判断力、表現力等の育成を図るため、各領域の内容を総合したり日常の事象や他教科等での学習に関連付けたりするなどして見いだした問題を解決する課題学習に取り組めます。この実施に当たっては各学年で指導計画に位置付ける工夫を行い、授業では、その取組の一例を参観していただく予定です。

◇月 日：11月27日(月)      ◇会場校：見附市立今町中学校  
◇公 開：1学級 1年 「比例・反比例」 授業者 原 聖治  
◇指導者：中越教育事務所      指導主事 水寫 繁満  
長岡市立中之島中学校 校長 熊谷 正美

# 数学〈新潟地区〉

「ずれが生じる問題」と  
「ずれを顕在化する問題提示」で、  
互いに問いを共有し、  
数学的表現力を高める！



新潟市中教研 数学部

研究推進責任者(左) 新潟市立白新中学校

田村 友教

会場校担当(右) 新潟市立横越中学校

佐々木 達彦

「ずれが生じる問題」と「ずれを顕在化する問題提示」で、生徒の情意面・集団性が高まり、数学的表現を使った協働的な学びが実現します。

## 手立て設定の理由

教師のねらいに反して、生徒の情意性や集団性が高まらず、学びが深まらないことがあります。「ずれが生じる問題」と「ずれを顕在化する問題提示」を通して、ねらいに迫る論点（問い）を引き出すことで、次のような3つの利点が期待できます。

### 手立てのメリット

- ① 生徒の問題に対する問題意識を醸成することができます。(主体的)
- ② 論点をもとに対話が促進されます。(対話的)
- ③ ずれの原因を学習内容と結び付けて説明することを通して、数学的な見方・考え方を働かせることができます。(深い学び)

## 手 立 て

「ずれが生じる問題」と「ずれを顕在化する問題提示」で、ねらいに迫る論点（問い）を引き出す。

### ステップ1

ずれが生じるように問題を提示する。

### ステップ2

論点（問い）を共有する。

### ステップ3

数学的表現を使って、互いの考えを交流・検討する。

## ! ここは気をつけよう！

授業のねらいに迫る論点（問い）を引き出すことが重要になります。そのために、「どのような問題を提示し」、「どのようなずれを生じさせるか」を吟味する必要があります。また、予め生徒のずれを予想しておくことも重要です。

## ステップ 1

ずれを顕在化する問題提示

**<問題場面>**  
玉露茶をおいしくいれるために、適正温度  $60^{\circ}\text{C}$ のお湯を沸かしたい。


500mLの水を4分で $100^{\circ}\text{C}$ に沸かすことができる。

**<問題>**  
この電気ケトルで500mLの水を $60^{\circ}\text{C}$ に沸かすには何分かかりますでしょうか？

**<ずれ>**  
 $4:x=100:60$   
 $x=2.4$  2分24秒  
実際に実験をしてみると、2分24秒で $60^{\circ}\text{C}$ にならない。

授業のねらいをふまえて、生徒に「おや?」「あれ?」「どうして?」等のずれが生じるように問題を提示します。そのずれが本時の論点につながるように授業を仕組むことで、問題意識・目的意識をもって主体的な学びが期待できます。

## ステップ 2



**<論点の共有>**  
なぜ、2分24秒で $60^{\circ}\text{C}$ にならないのだろうか。


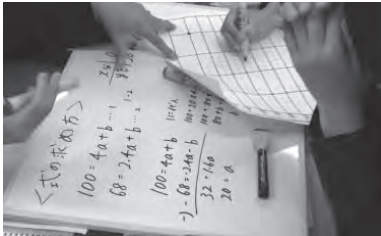
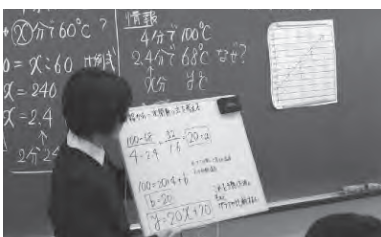
明らかにしたい!!!

表・式・グラフで考えてみよう

**<学習課題>**  
 $60^{\circ}\text{C}$ にならない理由を説明し、 $60^{\circ}\text{C}$ になる時間を求めよう。

ねらいに迫る論点を明確にし、本時の学習課題を設定します。生徒から学習課題を引き出すようにすると、自分自身の課題としてステップ3の活動にスムーズに進めることができます。

## ステップ 3

論点(問い)に対する考えを、数学的表現を用いて説明させます。その際に、ホワイトボードに必要な資料を貼り、「根拠」を明らかにするように促すと、より対話的に検討させることができます。

### 指定研究会情報

#### 新潟地区(新潟市中教研)数学教育研究発表会

◇研究主題：数学的に表現する能力を高める授業の工夫  
～生徒の主体的な学び合いを通して～

「ずれが生じる問題」と「ずれを顕在化する問題提示」で、ねらいに迫る論点(問い)を引き出し、協働的に問題を解決していきます。その際に、数学的な表現を使って説明させることで数学的表現力を高めていきます。

◇月 日：11月2日(木)

◇会場校：新潟市立横越中学校

◇公開：3学級 1年 「比例・反比例」 授業者 渡部 睦  
2年 「一次関数」 授業者 佐々木 達彦  
3年 「関数」 $y=ax^2$  授業者 川瀬 美緒

◇指導者：新潟市立総合教育センター 指導主事 小竹 智

# 数学〈下越地区〉

ホワイトボードを使って  
求め方をまとめ、互いに  
説明し合い、理解を  
深める！



村上市・岩船郡中教研 数学部

研究推進責任者(左) 村上市立村上第一中学校

青山 亮

会場校担当(右) 村上市立山北中学校

小松田 泰弘

多様な求め方を生徒から引き出し、グループごとでその求め方を検討し、他グループとの交流活動の場を設定することで、主体的に学び合う力を養うことができます。

## 手立て設定の理由

生徒は、図形の問題に対して慣れてくると解き方を覚え、利用されている図形の性質や定理を見落とすようになる。そこで、根拠を明確にした証明をグループで作成・検討し、その証明を他者に説明して生徒の課題意識を高めることで、主体的に学び合う力の向上につながると考えた。

## 手立てのメリット

- ① 多様な求め方を生むことができる。
- ② 説明に必要な根拠を意識することができる。
- ③ 説明を聞くだけでなく、他者に説明することで、理解を深めることができる。

## 手 立 て

### インタラクティブ（対話形式） 発表を中核に据えた授業設計

#### ステップ1

多くの既習事項が活用できる学習課題を設定する。

#### ステップ2

カードを用いて図形の性質を視覚化する。

#### ステップ3

グループ活動で解き方・求め方の検討をし、インタラクティブ発表を行う。

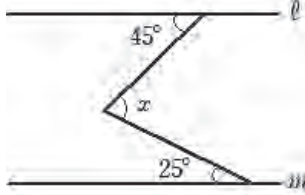


## ここは気をつけよう！

インタラクティブ発表では、全員が発表することになるので、一人一人が責任をもって活動に取り組むことになります。数学だけでなく、他教科や道徳、学活などでも行うことで主体的に学ぶ生徒が育ちます。ただ、どの場面で行うのか、年間指導計画の中に位置づけておくといいでしょう。

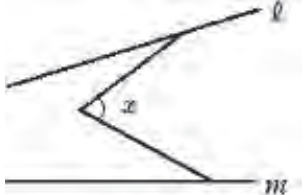
## ステップ 1

<課題1>



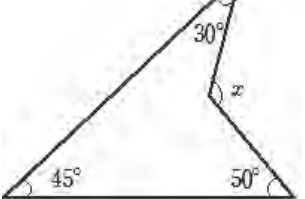
2直線が平行の場合、 $x$ の大きさはどうなるだろうか。(どんな補助線を引いて求めるか。)

<条件変更>



2直線が平行でないとき、どんな形になるだろうか。

<課題2>



2直線が平行の場合のように、補助線を引いて $x$ の大きさを求めることはできないか。

## ステップ 2



各班で、補助線や既習事項を利用して $x$ の大きさの求め、その求め方を比較、検討します。その際、図形の性質をカードにし、視覚化することにより、証明を簡潔につくり上げることができ、他者に対し、説明がしやすくなります。

## ステップ 3

グループで活動することで、他者と意見交換・検討をし、よりよい証明をつくり上げることができます。

インタラクティブ発表では、全員が他者に発表をし、また、全員が他者の発表を聞きます。その中で、質問をしたり、意見を述べたりすることで考えや理解が深まります。また、説明を受けたその場で、類題を解くことにより、定着にもつながります。これらの活動を通して、主体的に学び合う力が向上していきます。

<インタラクティブ発表>(例: 3グループで3回発表を行う場合)

①各グループで発表順序を決める。

※人数がそろわないときは、2人で1組としても構わない。

A	A-1 A-1 A-2 A-3	B	B-1 B-2 B-2 B-3	C	C-1 C-2 C-3
---	--------------------------	---	--------------------------	---	-------------------

②1番目の発表者は自分のグループで発表し、その他の人は他のグループの発表を聞く。以降、2番目、3番目と続く。

A	A-1 A-1 B-3 C-3	B	B-1 A-2 C-2	C	C-1 A-3 B-2 B-2	発表者
---	--------------------------	---	-------------------	---	--------------------------	-----

【引用・参考文献】『授業改善ヒント集Ⅱ』新潟県立教育センター[平成28年3月]

### 指定研究会情報

#### 下越地区(村上市・岩船郡中教研)数学教育研究発表会

◇研究主題: 主体的に学ぶ生徒の育成

～インタラクティブ発表を中核に据えた授業を通して～

ホワイトボードを2枚準備し、1枚目には補助線などが入った図形を描き、2枚目には根拠がかけられた証明を書きます。数学や説明が苦手な生徒でも1枚目の図形を利用して説明ができるようにします。そして、他者と考えを交流することで、学びを深めていきます。

◇月 日: 11月7日(火)

◇会場校: 村上市立山北中学校

◇公開: 1学級 2年 「図形の性質」 授業者 小松田 泰弘

◇指導者: 下越教育事務所

指導主事 香遠 正浩

村上市立村上東中学校 校長

高橋 哲衛

# 美術

～発見と発想を生み出す工夫～

## 鑑賞活動と創作活動を一本の線上にして、「学び合う授業」を位置づけよう



県中教研 美術部 全県部長  
五泉市立川東中学校 古田 修

鑑賞活動を行うと表現活動に影響するのか  
「どんなことが？」「なぜ必要？」

巧みに作品を創るだけでなく、鑑賞活動で新たな発見と変化からの課題に対応することが、表現の広がりにつながる学習活動です。

他者と交流する学び合いの要素を「美術の学び合い10」に盛り込みました。その中から、地域との関わりや鑑賞の大切なところを紹介します。

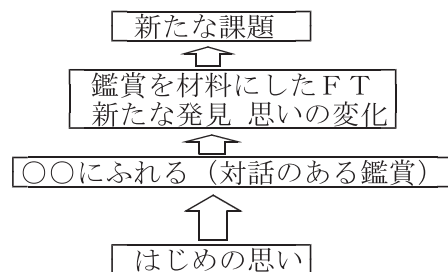
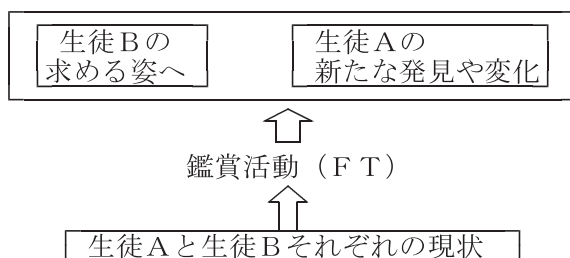
### ポイント1 「感動はそれぞれ、異なる感じ方を大切に」生徒の感動を逃さず（小さな関心と感動を積み重ねる）、表現の意欲に繋げる。

例えば、一つの作品をじっと眺めていて、作品に心ひかれる生徒（生徒A）もいれば、そうでない生徒（生徒B）もいる。Bの生徒をAに近づけるFTの効果に期待します。

生徒Aと生徒Bの混じり合ったグループでFTを行います。

鑑賞活動にはいろいろな方法があるが、「本物に触れる」「作者にふれる」「地域や伝統にふれる」などから深まる鑑賞活動の材料を集めましょう。

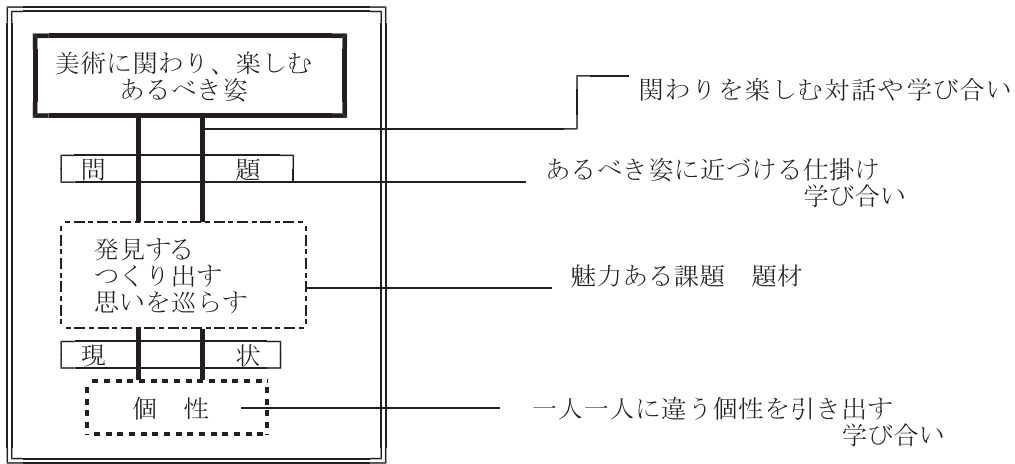
対話型の語り合う鑑賞は、生徒の感じ方に変化をもたらします。



### ポイント2 「答え？は一つではない」表現活動に他者の影響を反映させる。「変える」「変わる」、表現への思いの高まりを妨げない。

創作活動中に「考えが変わる」「もっと理想に近づける方法を知りたい」など、思いが変わっていくことがあります。結果だけではなく、プロセスを大切にすることが発見と構想を豊かにし、表現力を高めていきます。

地域の人・もの・こと・自然への関わりを創作活動に盛り込むことや選んだり共通点を探したりする授業を構想します。途中で思考する材料となっていきます。



創作活動の前，途中に互いの作品を基に，FTで意見交流を設定したり，互いの作品を認め合ったりすることで表現に自信をもつことや追究に繋げていきます。

## 美術 重点方針

### 「生涯にわたり，美術を生活に取り入れたり，楽しんだりする生徒の育成」

- 地域にかかわる「人・もの・こと・自然」を活用した授業を取り入れる。
- 対話のある授業によって，思考を働かせ，自信をもって発想し，お互いの考えを認め合う生徒を育てる。

## 美術 学び合い10

①	題材と目標と指導計画	生徒の発達段階や生活体験，学習状況に基づいて，指導計画や授業構想を立てている。
②	魅力ある題材の設定	造形的な知的的好奇心を刺激したり，学習意欲を高めたりするような題材を設定する。
③	対話や創作活動から自己を見つめる	言語等を用いて，色や形などを観点に交流したり，振り返ったりする場面を設け自己理解を促している。
④	造形的な技能の習得	表現しようとする意図に応じた技法や表現方法を試したり，材料を体験したりする場面を設けている。
⑤	造形的な環境づくり	美術室をはじめ，校内に日常的に作品を鑑賞できる環境を整えている。
⑥	鑑賞授業の充実	創造活動にかかわることや世界と日本の文化等の鑑賞授業を行う。
⑦	美術館・大学等との連携した活動	美術館や大学，関係諸機関等との関わりをもち，人材・作品・資料等を活用しようとしている。
⑧	地域文化や行事の活用	身近な地域から題材を取り上げ，生徒の体験・経験を生かした交流活動や創作活動をしている。
⑨	日常生活との関連	身の回りの日用品等に目を向け，機能や美しさを追求したり，生活を豊かにする美術の特性について気付いたりする活動を設けている。
⑩	他者との関わり合い	表現活動において，用途や機能を基に交流したり，検討したりを通して，相手意識をもって発想したり構想したりする活動を行っている。

- ※ 生活に取り入れる…「生活を美術で楽しむ」がある
- ※ もっと知りたい 深めたい 作りしたい  
…「どうすれば・どうして」がある
- ※ 学びの多くは，教室の外にある
- ※ ひらめきの瞬間を生み出せる授業

### 「開かれた美術」

地域にかかわり，自校の美術におけるカリキュラムに人・もの・こと・自然との結びつきを大切にする授業でありたい。地域に学ぶことだけや制作だけにとどまらず，学校・地域で活用していくことができる表現活動の授業。さらに地域に発信するところまでを考えれば一単位の中で目的の達成と広がりをつくりだすことはできないか？

# 美術〈上越地区〉

## “美術独自の学び合い” で自信と意欲を高める



上越地区中教研 美術部

研究推進責任者(左) 上越市立直江津中学校 太田 聡子  
会場校担当(右) 上越市立城西中学校 梨本 高志

生徒が制作や鑑賞で感じたことを伝え合うことが、考えを深め鑑賞や表現する意欲につながります。

### 手立て設定の理由

美術の表現や鑑賞は生徒の個人活動が多くなります。これまでは、指導する教師と生徒との対話を大切に制作や鑑賞活動を進めてきました。しかし、不安や苦手を感じている生徒もいます。生徒同士の対話を通じて、他者を認める、認められる場面を設定することで次の利点があります。

### 手立てのメリット

- ① 見つけ方や感じ方の視点を示し、他者から新たな気づきを得て生徒独自の発想を広げることができます。
- ② 伝え合う活動でコミュニケーションを図り、自己肯定感を高めることができます。
- ③ 見つけたことや伝え合うことで自分の見方や考え方が広がり、自信をもって鑑賞や表現活動へつなげることができます。

### 手 立 て

#### 表現・鑑賞活動で伝え合う場 を設定する

##### ステップ1【見つける】

他者のスケッチや感想から新たな視点を見つけます。

##### ステップ2【伝える】

他者と言葉や付箋で、見つけたよさや感想を伝え合えます。

##### ステップ3【自分に生かす】

自分の表現や鑑賞活動に、発見したことや認めてもらったこと生かします。

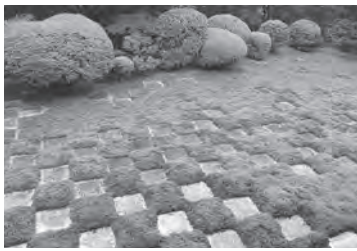


### ここは気をつけよう！

技能面に不安を感じる生徒、発想することを苦手とする生徒にも、自分の表現を試す時間を確保します。また、他者と伝え合う場面を設定します。その際には、教師から発想面や技能面で「よさ」や「美しさ」など見方の視点を伝えておくことが大切です。



## ステップ 1



幾何学模様を組み合わせ  
アイデアを考える



日本の伝統文化を紹介するなど見方を示します。幾何学模様（丸・三角・四角など）を組み合わせデザインのアイディアを考えます。試行錯誤しながら、簡単に直すことができます。アイディアを交換しながら、生徒独自のよさを見つけていきます。

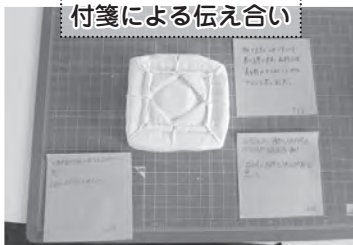
## ステップ 2



油粘土による試作



付箋による伝え合い



木彫の技法を視覚的に理解するために、油粘土を使い試作を行います。互いに試作について発表し、いいなと感じた点、参考にしたい点、やり方の疑問点をまとめた付箋をシートに貼り付けます。他者に直接試作に手を加えてもらうことも可能です。

## ステップ 3



試作や仲間からのアドバイスや  
メッセージを見て再び考える



他者からもらった付箋や試作を見ながら、自分で取捨選択し、アイディアスケッチを完成させます。

拡散されていた様々な情報を収束し、自ら考え、よりよい表現を目指す生徒の育成を目指します。

### 指定研究会情報

#### 上越地区（上越市中教研）美術教育研究発表会

◇研究主題：かかわる・かわる・つなぐ造形教育

研究1年目では、研究主題をもとに「共同制作」の学習形態を通して、構想や制作を行いました。常にグループの中でコミュニケーションをとりながら活動しました。2年目では、美術科が大切にしている個人の気づきや思いを伝え合うことで、生徒が自信をもって活動する様子を公開する予定です。

◇月 日：11月14日（火） ◇会場校：上越市立城西中学校

◇公 開：1学級 2年 授業者 梨本 高志

◇指導者：上越市教育委員会学校教育課 指導主事 岩片 嘉和  
上越市立小猿屋小学校 校長 梅澤 崇

# 美術〈中越地区〉

## 職人技に触れ，伝統工芸の すご技を学び合おう！！



加茂市・南蒲原郡中教研 美術部

研究推進責任者(左) 加茂市立加茂中学校

近 まどか

会場校担当(右) 加茂市立葵中学校

菊谷 かおり

伝統工芸の職人技を知ることにより，個々の創造力を広げていきます。また，学び合いを通して，より高い技能に気づきます。

### 手立て設定の理由

しっかりと制作に取り組む生徒が多くいますが，さらに新たな気づきから発想力や思考力を深めさせて豊かな表現のある作品ができるように，と考えました。

地域にある伝統工芸を取り入れることで，地域のよさを再発見できます。またグループで活動することで次の利点があります。

#### 手立てのメリット

- ① 職人の技にふれ，伝統工芸技術の素晴らしさや本物のよさに気づく。
- ② 学び合いの中から，より高い技能を身につけることができる。
- ③ 郷土を愛し，文化を守る心を育てる。

### 手 立 て

#### コースター作りを通して組子細工について学び合う

##### ステップ1

組子細工の技法を用いて三角コースターを制作させる。

##### ステップ2

職人の実演を鑑賞させ，職人のすご技に気づかせる。

##### ステップ3

自分の作品と職人技を比較検討させ，職人のすご技をもとに工夫できる点を探させる。



### ここは気をつけよう！

職人の方の作ったコースターと生徒が作ったコースターを比較し，どのような違いがあるか話し合い，コースターとして使用するに値する強度や形態を模索させます。少しの隙間や段差が，コースターとしての機能を失わせてしまうことに気づき，それを改善するため，より質の高い形態や組み方を工夫させます。安易な装飾に走らず，伝統工芸の基本の型をしっかり押さえるようにします。

## ステップ 1



角材を3本組み合わせ、三角形のコスターを制作する。  
基本のほぞ組みを用いて、自力で、コスターを完成させる。(組子の知識がない状態で行う)

## ステップ 2



職人の実演を鑑賞する。どのような工程で作業しているか、その精緻な仕上がりはどのように実現されているか、しっかり見とる。

## ステップ 3



職人技のすごさから気づいたことを学び合い、3人グループで自分たちの作品について、改良策や工夫点を見だし自分の作品に活かして表現する。

### 指定研究会情報

#### 中越地区（加茂市・南蒲原郡中教研）美術教育研究発表会

◇研究主題：学び合いを通して、主体的に取り組める指導の工夫  
～気づく つながる 表現する生徒の育成～

実際に組子細工を制作してから職人の方に来ていただき、アドバイスをもらう。そこで自分の作品との違いや職人技の正確さや緻密さに気づき、伝統工芸についての造詣を深める。

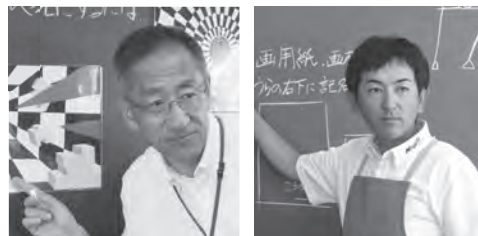
◇月 日：11月14日（火） ◇会場校：加茂市立葵中学校

◇公 開：1学級 1年2組 授業者 菊谷 かおり

◇指導者：新発田市立二葉小学校 校長 長谷川 恵

# 美術〈新潟地区〉

## 表現と鑑賞を関連付けて、 対話や深まりを生み出す ～立体造形～



新潟市中教研 美術部

研究推進責任者(左) 新潟市立鳥屋野中学校 石井 隆浩  
会場校担当(右) 新潟市立曾野木中学校 山際 保男

制作において全員が同じ条件となるようなしかけをつくる。そのしかけによって、制作に集中しながら発想力を向上させます。交互に表現と鑑賞を行うことで発想に広がりをもたせます。

### 手立て設定の理由

制作に対して、自分の技術に自信がもてない生徒は少なくありません。のびのびと制作するための手立てが必要です。

その手立てとして「同一条件となる制作環境作り」と「相互鑑賞」を行うことで、次の3つの効果が期待できます。

### 手立てのメリット

- ① 未体験な活動によって期待感をもって意欲的に活動できます。
- ② 展開の中で視界が回復すると同時に、相互鑑賞が行われます。
- ③ イメージする力と多面的に形を追求する力が高まります。

### 手 立 て

だれもが主体的に制作できる工夫で学び合う姿を見出す。

#### ステップ1

制作環境の工夫。

#### ステップ2

自然と生まれるペア、グループ鑑賞での学び合い。

#### ステップ3

ワークシートにイメージしたものを整理する。

### ! ここは気をつけよう!

具体的な形の再現を追求する活動ではありません。手の感覚と想像する力を育成するために、視覚を遮ります。そこで得たイメージする力を抽象彫刻の表現に活用していきます。制作するモチーフは「優しい」「永遠」「悲しい」などを自己決定させます。スケッチができなくても制作を始めます。触っていく中で形が出てくることもあります。

## ステップ 1



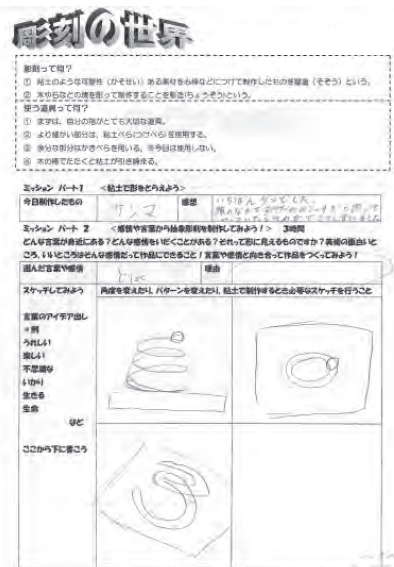
視界を遮った状況で制作します。他者の視線を気にすることなく制作に集中できます。イメージが表現活動と結びつくことに気づきます。

## ステップ 2



視界が元に戻ると自分の作品、周りの作品をじっくりと鑑賞し始めます。作品から造形活動への期待感が高まります。

## ステップ 3



多面的に考え、イメージしたものをスケッチしていきます。スケッチしたものを制作し、試行錯誤しながら自分のイメージした形を目指します。

### 指定研究会情報

#### 新潟地区（新潟市中教研）美術教育研究発表会

◇研究主題：豊かな感性を養い、主体的に創造活動に取り組む生徒の育成

立体造形（加工粘土）の制作において、視界を遮る場面を作ります。他者の制作に気をとらわれず、自分の想像力と手元に集中できる授業を展開していきます。授業の中で具象物と抽象物の両方を制作する予定です。

◇月 日：11月2日（木） ◇会場校：新潟市立曾野木中学校

◇公開：1学級 1年 「彫刻の世界」 授業者 山際 保男

◇指導者：新潟市教育委員会 指導主事 石塚 崇

# 美術〈下越地区〉

## 「地域美術館の活用」 「語り合いと発表の場の設定」で 高める鑑賞力・表現力



新発田市中教研 美術部

研究推進責任者(左) 新発田市立東中学校 片桐 洋子

会場校担当(右) 新発田市立第一中学校 澁谷 雅恵

地域の美術館を活用し本物の作品に触れ、語り合う場面を設定することで、作品や作者への愛着や魅力が深まり、鑑賞力、表現力が向上する授業を目指します。

### 手立て設定の理由

授業の何を変え、制作や鑑賞における表現力を引き出すかが大きな課題でした。

今回の授業では、生徒が語り合いの中で自分の思いを伝え合い、発表により他の意見に共感したり、新しい考えを発想したりする場を設定することで意欲や自信の高まりを期待しました。

さらに、美術館で本物の作品に触れることで、表現力や鑑賞力の向上につながると考えます。

### 手立てのメリット

- ① 作品が画集ではなく本物であること。  
何よりも実物に触れながらの魅力ある授業の中に生徒を置き、鑑賞し、作品への思いを廻らせることができます。
- ② 互いの思いを可視化して語り合うことで、言葉で表現する意識が高まり話合いも深められる。
- ③ ステップ3で新たな鑑賞の発想や視点が生まれ、より豊かに作品や作者の魅力を感じることができます。

### 手 立 て

本物の作品を鑑賞し「語り合い」と「発表」の場を設定することで、思考の深化を図る

#### ステップ1

美術館の本物の作品を鑑賞する。感じたことをその場で記録する。

#### ステップ2

感じたことを伝え合う。可視化した語り合いの中で、作家の魅力を表す言葉を考える。

#### ステップ3

自他の発表から共感し合い、新しい見方を発見する。

### ! ここは気をつけよう!

- ・ステップ3でよりよい表現を追求するために、ステップ2でFTに大判の用紙やタブレットを活用し、視覚化した語り合いの工夫でより豊かな発想や表現ができるようにします。
- ・「魅力を表すための言葉」の作成を「①キーワードの収集→②言葉の組み合わせ→③文章化」のステップで進められるようにします。

## ステップ 1



美術館で作品を鑑賞する



各々が選んだ鑑賞作品を  
タブレットで記録する



作品の魅力を文章でまとめる

### 本物の作品に触れ、感じる場面の設定

地域の美術館である 落谷虹児記念館で作品を鑑賞します。

生徒が個々に魅力的と感じ選んだ作品をタブレットに写真で記録します。その魅力を文章でメモしておきます。

## ステップ 2



グループで、自分の選んだ  
作品の魅力を伝える



他のメンバーが選んだ作品に  
ついて語り合う



大事にしたい言葉を選ぶ

### グループで語り合う場面の設定

個々に記録したタブレット写真をグループに持ち寄ります。選んだ作品と選んだ理由をグループで伝え合い、可視化した語り合いの中で、落谷虹児の魅力伝えるために大事にしたい言葉を考えていきます。

## ステップ 3



虹児の魅力を表す言葉を  
まとめる



落谷虹児作品の魅力を  
発表する

### グループごとの発表場面の設定

グループでの語り合いを通しての、新しい視点や気づきを「魅力を表す言葉」に込め、発表します。

自分の意見を述べることで受容してもらえる喜びを感じたり、他者の考えを聞いたりすることで思考や理解が深まると考えます。

## 指定研究会情報

### 下越地区（新発田市中教研）美術教育研究発表会

◇研究主題：人との関わりを通して考えを深めさせる指導の工夫

語り合いと発表の場を設定することの手立てを鑑賞の授業で実践していきます。個々で作品鑑賞の感想を紹介し合う活動から、グループで落谷虹児の魅力を言葉で表わすことで、鑑賞の視点や感じ方を深化させていきます。

人との語り合いや協働創造のなかで表現力を高めます。

◇月 日：10月17日（火）

◇会場校：新発田市立第一中学校

◇授業公開会場：落谷虹児記念館、新発田市民文化会館

◇公開：1学級 3年 授業者 澁谷 雅恵

◇指導者：県中教研美術部 全県部長 / 五泉市立川東中学校 校長 古田 修

# 道徳

## 道徳教育の量的確保と質的転換を図り、「特別の教科 道徳(道徳科)」で、道徳的価値の自覚を深め、自立した人間として他者とともにによりよく生きるための道徳性を養う



県中教研 道徳部 全県部長  
長岡市立刈谷田中学校 比後 慎一

道徳性を養うために、道徳的諸価値についての理解や自覚を深め、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める質の高い多様な指導方法やフレームワーク（思考ツール）の活用法等のポイントを紹介します。

### ポイント1 道徳科において育むべき資質・能力と質の高い多様な指導方法について、理解を深め共有する。

一人一人が高い倫理観をもち、人間としての生き方や社会の在り方について、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を模索し続けるために必要な資質・能力を備えることが求められています。また、答えが定まっていない問いを受け止め、多様な他者と議論を重ねて探究し、「納得解」「最適解」を得ていく資質・能力も必要です。この力を養うことが「考え、議論する道徳」の実現であり、「主体的・対話的で深い学び」を実現することにもなると考えられます。

#### (1) 学習指導要領の資質・能力の三つの柱と道徳教育の関係（対応）

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
道徳的諸価値の理解と自分自身に固有の選択基準・判断基準の形成	生徒一人一人の人間としての生き方についての考え（思考）	人間としてよりよく生きる基盤となる道徳性
※道徳科の学習の中で、相互に関わり合い、深め合うことによって、道徳性を養うことにつながる要素		※道徳教育で育成を目指す資質・能力

#### (2) 「考え、議論する道徳」への転換に向けて求められる質の高い多様な指導方法

- ① 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習
- ② 問題解決的な学習
- ③ 道徳的行為に関する体験的な学習

※様々な指導方法の例であり限定されない。また、独立した「型」でもなく、組み合わせた指導も考えられる。

### ポイント2 「考え、議論する道徳」への質的転換を図り、考えを深める具体的なフレームワーク(思考ツール)の活用法等を探究する。

「考え、議論する道徳」への質的転換を図るために、様々な手立てが必要です。導入・展開・終末の指導過程における基本プロセス（個→拡散→構造化→個）の活用や自分の問題として捉えさせる発



問の工夫、ファシリテーション等で多面的・多角的に考えを拡散し、構造化するフレームワーク（思考ツール）の活用には、以下の具体例が考えられます。

- (1) 道徳的価値に対する生徒の思考に変化を促す働きかけとフレームワークを併用した実践例  
道徳的価値の自覚に迫る道筋を①価値の表出→②価値の焦点化→③価値の探究→④価値の再構成と考え、生徒の思考を変化させるアプローチを行う。そこにフレームワークを活用し、思考を支援。
- (2) 個々の考えを可視化し、生徒が感じた道徳的問題を明らかにして考えを深める実践例  
生徒の考えが可視化できる指標や表を用い、意見交流する。そこで明らかとなった道徳的問題を中心発問によって自分事として捉えて深め、キーワードを用いて振り返りを行う。
- (3) 登場人物への共感度を4段階スケールで表し、その理由を交流して価値の自覚を深める実践例  
ある程度理解している道徳的価値について、登場人物の心情や行為についてスケールを用い交流し、フレームワークで整理して正対させると、実践に結び付けるための自覚に深める効果が期待できる。
- (4) 中心発問で自分のとるべき行動を考え話し合い、特別のカードへの記入を集積する実践例  
道徳的価値に対する思いや感想ではなく、自分のとるべき行動を考えさせ、理由に「だって」、問題点や反論に「でもさ」を用いて個の考えを深めてから話し合う。「よりよい生き方」という観点で整理し、カードに集積した考えは、他の授業でも見返すなどして活用する。

## 道徳 重点方針

道徳的諸価値についての理解と自覚を深める手立てを講じ、よりよい生き方を考えさせる。

- 「考え、議論する道徳」に向けて求められる質の高い多様な指導方法を展開し、量的確保と質的転換を図り、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。①登場人物への自我関与が中心の学習、②問題解決的な学習、③道徳的行為に関する体験的な学習等のそれぞれの要素を組み合わせた指導も可。
- ファシリテーション等で多面的・多角的に考えを拡散し、フレームワーク（思考ツール）で生徒の考えを可視化（構造化）し、道徳的価値の理解や自覚を深め、納得解・最適解を得る手立てを講じる。
- 自分や学びにじっくりと向き合い、自覚を深め、よりよい生き方を考えて道徳性を養う。

## 道徳 学び合い10

①	学習環境と実態把握	グループや全体において自分の考えを主張でき、他者の考えを認め合う支持的風土を育て、生徒の実態や道徳性の高まりを把握して授業を構成している。
②	組織的な取組の推進	校長や道徳教育推進教師のリーダーシップのもと、組織的に全体計画・年間指導計画等を作成し、年間35時間の道徳科を量的に確保している。
③	自分の問題として捉える課題設定	「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」を実現する課題を設定している。
④	「考え、議論する道徳への転換」のための指導方法の改善（質の高い多様な指導方法）	読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習で、自分との関わりにおいて多面的・多角的に考え、道徳的価値の理解を深める授業を工夫している。
⑤		生徒が生きる上で出会う様々な道徳的諸価値に関わる問題や課題を自分事として考えるなどの問題解決的な学習を設定している。
⑥		様々な問題や課題を主体的に解決するために、道徳的行為に関する問題場面で実感を伴って理解できる体験的な学習を設定している。
⑦	他者の考えに触れ、議論を深める場の設定	ファシリテーション等で多面的・多角的に考えを拡散し、構造化する。フレームワーク（思考ツール）で生徒の考えを可視化し、道徳的価値の理解や自覚を深め、納得解・最適解を獲得している。
⑧	よりよい生き方を考え、振り返る場の設定	本時または一定のまとまりの中で道徳科の学習を振り返り、可視化された多様な価値観から道徳的課題や価値にじっくりと向き合い、よりよい方向を模索する場を設定している。
⑨	評価の在り方と具体的な工夫	「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子」を個人内評価として丁寧に見取り、記述する様式や表現するための記録の蓄積方法を工夫している。
⑩		学習活動において生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかを重視している。

# 道徳〈上越地区〉

## 『思考が変化していくモデル』に基づく「考え、議論する道徳」を目指した授業づくり



上越市中教研 道徳部

研究推進責任者(左) 直江津東中学校 笠原 里美

会場校担当(右) 頸城中学校 新保 隆之

『思考が変化していくモデル』に基づく3つのステップを意識した授業づくりに取り組むことで「考え、議論する道徳」を目指した授業改革に迫ります。

### 手立て設定の理由

「考え、議論する道徳」を、「生徒の思考の変化による道徳的価値への迫り」と捉えます。思考の変化を促すには、生徒が、道徳的価値を自分ごととして捉え、内面から生み出される疑問や課題を、他者との交流や対話を通して深めていくことが重要となります。

### 手立てのメリット

- ① 道徳的価値に迫る道筋を、生徒の思考の変化として捉えられます。
- ② 道徳的価値の焦点化を、必然性のある課題の設定により促します。
- ③ 交流や対話を通して、道徳的価値に対する新たな気づきを促します。

### 手 立 て

3つのステップで生徒の思考の変化を促す！

#### ステップ1

『思考が変化していくモデル』の事前想定（授業の構想）

#### ステップ2

思考の変化を促すアプローチとフレームの選定

#### ステップ3

授業構想シートの作成と実践



### ここは気をつけよう！

アプローチ（思考に変化を促す働きかけ）では、生徒の内面に葛藤やゆらぎを生み出していきます。フレーム（アプローチの効果を高めるツール）は、資料の内容や生徒の実態等により適切に選択していきます。授業構想シートでは、思考が変化する道筋を具体的な手立てと結びつけて授業づくりを進めていくことが大切です。

# ステップ 1

# ステップ 2

# ステップ 3

ながれ

ステップ1  
思考が変化していくモデル

ステップ2  
アプローチとフレーム

導入

展開

終末

思考過程	思考の内容
価値の表出 「そうなの?」	○ギャップの『認識』 ・資料に内在する価値認識のズレ ・自分と他者との価値認識のズレ
価値の焦点化 「どういうこと?」	○価値の『焦点化』 ・価値認識のズレの整理と把握 ・価値認識のズレが生じる原因追究
価値の探究 「そうなのか!」	○価値の『新発見』 ・探究すべき価値の共有 ・深い思考(葛藤、ゆらぎ、発見)
価値の再構成 「わかった。」	○価値の『深い理解』 ・多面的な価値の自己解釈 ・実生活と未来への展望

アプローチ
意見や考えを <b>つなぐ</b> ことで、価値の捉え方のズレを明確にし、共有化を図る。
ギャップが生じる背景を <b>さぐる</b> ことで、探究すべき価値の焦点化を図る。
対話・交流から価値に対する新しい発見を共有し、多面的な価値理解を <b>深める</b> 。
思考の変化や新たな発見の有効性を検討し、これからの自分を <b>みつめさせる</b> 。

多様なフレーム

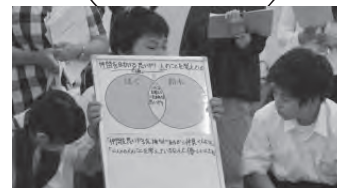
[主なフレーム]

- マトリックス
- ホワイトボード
- 論理チャート
- ベン図
- イメージマップ
- KPT
- ディベート
- ロール・プレイング
- ワールドカフェ
- サークルトーク
- 尺度

※これまでの実践例

ステップ3  
授業構想シートの作成と実践

アプローチ・フレーム	発問	流れ	生徒の思考が変化していくモデル [事前の想定]	記録・改善策
つなぐ		導入		価値の表出
さぐる		展開		価値の焦点化
深める				価値の探究
みつめさせる		結末		価値の再構成



## 指定研究会情報

### 上越地区（上越市中教研）道徳教育研究発表会

◇研究主題：「考え，議論する道徳」を実現させる授業の工夫

『思考が変化していくモデル』に基づく具体的な手立て（アプローチとフレーム）を意識した授業を展開することで、生徒の思考の変化を促していきます。

◇月 日：10月26日（木） ◇会場校：上越市立頸城中学校

◇公 開：2学級 2年 「生き抜いて」 授業者 和田 慧一  
3年 「二通の手紙」 授業者 樋熊 綾子

◇指導者：上越市教育委員会学校教育課 管理指導主事 青山 尚子  
上越市立中郷中学校 校長 中村 博子

# 道徳〈中越地区〉

## 主体的に考え、議論する授業で、 自己を見つめ、多面的・多角的に 考える生徒を育成する



長岡市三島郡中教研 道徳部

研究推進責任者(左) 長岡市立北中学校

大橋 立明

会場校担当(右) 出雲崎町立出雲崎中学校

渡辺 嘉章

自分の考えを可視化させ、意見交流によって道徳的問題を明らかにし、中心発問で考えを深めさせるというステップで、主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話合いや読み物の登場人物の心情の読み取りのみに偏った道徳授業からの脱却を目指します。

### 手立て設定の理由

他教科に比べて軽んじられる傾向や、読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導など、道徳の時間には多くの課題が指摘されてきました。

右のような手立てをとることにより、次の3つの利点があります。

#### 手立てのメリット

- ① 生徒の多様な考えが明確になることで意見交流が活発になります。
- ② 生徒自身が問題だと感じていることを中心発問につなげるため、自分ごととしての捉えが容易になります。
- ③ 自分の考えを深めた結果が明確になり、道徳的諸価値の理解が深まります。

### 手 立 て

自分の考えを明確化した上で行う意見交流により、道徳的問題を明らかにし、中心発問を設定する。

#### ステップ1

自分の考えを可視化できる指標や表などを用いて意見交流させる。

#### ステップ2

ステップ1で生徒が感じた道徳的問題を明らかにし、中心発問によって考えを深めさせる。

#### ステップ3

道徳的諸価値の理解を自覚させるために、振り返りを工夫する。

### ! ここは気をつけよう!

本時の主題やねらいがはっきりしていないと、日常生活の問題処理や単なる生活経験の話合いで授業が終わってしまいます。教師が本時に考えさせたい道徳的価値をはっきりさせ、指導要領解説を基に本時の主題やねらいを設定することにより、道徳的問題が明確な中心発問を提示することができます。

## ステップ 1



黒板に自分の立場を明示する



意見交流で多様な考えと交流する

自分の考えや現在の立ち位置を可視化できる指標や表・選択肢などを用いて意見交流させます。

これにより、意見交流が活発になり、他の生徒の多様な考えと交流することができます。

## ステップ 2



道徳的問題を明らかにする

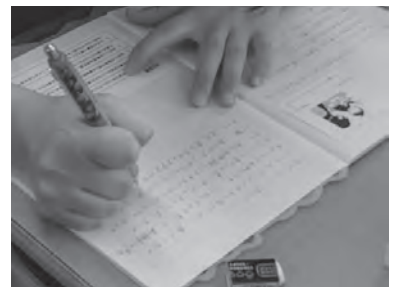


中心発問によって考えを深める

生徒の考えの中から理解させたい道徳的価値を見つけることにより、どこに問題があるのか、何が問題なのかをはっきりさせます。

その後、道徳的問題が明確な中心発問によって考えさせることで、ねらいに迫る主体的な思考につなげます。

## ステップ 3



振り返りを工夫して、道徳的諸価値の理解を自覚する

授業の終末の振り返りでは、「最初は」「授業を受けて」「これからは」の三つのキーワードを指定して感想を書かせ、道徳的価値の理解を自覚させます。

また、これからの生活に生かしたいことを書かせることにより、道徳的実践意欲や態度の向上を見とることができます。

### 指定研究会情報

#### 中越地区（長岡市三島郡中教研）道徳教育研究発表会

◇研究主題：自己を見つめ、多面的・多角的に考える生徒の育成  
～主体的に考え、議論する授業を目指して～

自分の考えを明確にした上で意見交流させ、道徳的問題を明らかにし、中心発問によって考えを深め、振り返りを工夫して道徳的価値の理解を自覚させる授業を公開します。

◇月 日：11月10日（金） ◇会場校：出雲崎町立出雲崎中学校

◇公 開：2学級 1年 3-(3) 「長岡の殿様と良寛さま」 授業者 山本 裕美  
2年 4-(7) 「クラスのみとまり」 授業者 内山 貴啓

◇指導者：上越教育大学教職大学院 教授 早川 裕隆  
長岡市立富曾亀小学校 校長 廣田 芳宏

# 道徳〈新潟地区〉

## “4段階スケール”での議論による、 道徳的価値の自覚の深まり！！



新潟市中教研 道徳部

研究推進責任者(左) 新潟市立白根北中学校 嵐田 浩二  
会場校担当(右) 新潟市立木崎中学校 佐藤 竜二

登場人物の内面の弱さや迷いに対する共感度や、行為に対する支持度を4段階スケール（生徒の本音を引き出すスケール）で表し、その理由について交流すると、道徳的価値の自覚が深まります。

### 手立て設定の理由

多くの生徒は、本時で取り上げる道徳的価値についてはある程度分かっています。しかし、その自覚は実践に結びついていないとは限りません。なぜなら、自分の弱さや迷いに十分に向き合っていないからです。登場人物の心情や行為について“4段階スケール”を用いて交流すると、次の3つの効果が期待できます。

### 手立てのメリット

- ① 選択した理由に生活経験が語られ自我関与できる。
- ② 自分の弱さや迷いに向き合うことで道徳的価値の自覚が深まる。
- ③ 深い道徳的価値の自覚に基づいた道徳的判断を促すことができる。

### 手 立 て

”4段階スケール”を用いて判断理由を交流します。

#### ステップ1

共感度を4段階で可視化します。

#### ステップ2

4段階の判断理由を踏まえて、行為の是非を問います。

#### ステップ3

意見交流から、よりよい行為を考えていきます。



### ここは気をつけよう！

全員が参加できるように小グループ内で“4段階スケール”を用いて交流させる場合は、個の思考場面の際に、ワークシートや付箋などに判断した共感度の理由を書かせ、一人一人がどのような思考をしているかを教師が的確に把握します。それを基に意図的に指名することで、多様な考えを引き出しながら、効果的な話し合いを進めていく必要があります。

## ステップ 1

共感度（支持度）スケール  
あなたは、△△した○○にどのくらい共感（支持）できますか？

とてもできる    まあまあできる    少しできる    全くできない  
3                    2                    1                    0



“4段階スケール”における共感度や支持度は3～0の4段階で示します。そして、自分の位置にネームプレート等を貼らせ、全体に可視化します。生徒は、自分と仲間との共感度のズレに関心をもち、その理由を聞きたくなります。

## ステップ 2

個々に判断理由を記述



小グループで交流



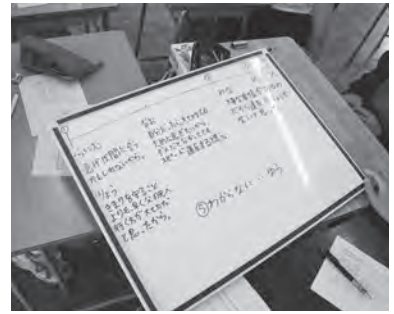
ホワイトボードを活用しての交流



肯定的理由と否定的理由を分けて書き出せるようにします。この際、色別の付箋紙等を使ったり、ホワイトボードに分けて記入したりします。

自分の生活経験に基づいた理由を大切にし、自分事として考えられるようにします。

## ステップ 3



“4段階スケール”による判断理由を交流する活動で、ねらいとする道徳的価値に反する人間の弱さや迷い、行為に対する是非を問い、資料の状況を自分事として向き合われます。

4段階スケールに対する交流で、道徳的価値の自覚を深めながら、道徳的判断力を高めることができます。

### 指定研究会情報

#### 新潟地区（新潟市中教研）新潟市教育研究発表会

◇研究主題：豊かなかかわりを通して、よりよく生きようとする生徒の育成  
～自己肯定感を高める学び合いのある授業の工夫～

“4段階スケール”の手立ては、全授業で取り入れる予定です。人間の弱さや迷いに自分事として十分に向き合わせた上で、解決の糸口やよりよい行為について交流・検討することで、道徳的価値の自覚を深めながら、それに基づいて道徳的判断ができるようになる授業を公開します。

◇月 日：11月16日（木）      ◇会場校：新潟市立木崎中学校

◇公 開：3学級    1年 授業者 立川 佳代  
                          2年 授業者 小林 正文  
                          3年 授業者 小林 由香

◇指導者：新潟市立矢代田小学校 校長 藤井 正人

# 道徳〈下越地区〉

## 道徳は、よりよい 自分の生き方を 考える時間だ!!



阿賀野市胎内市北蒲原郡中教研 道徳部

研究推進責任者(左) 胎内市立黒川中学校

小林 典子

会場校担当(右) 聖籠町立聖籠中学校

本田 奈美子

道徳の授業を、「よりよく生きるとは」を観点として、自分のとる行動を考えさせることで、自分の生き方を考える時間にします。

### 手立て設定の理由

資料の中の出来事を、他人事と捉える生徒は少なくありません。自分ならどう行動するかと問うことで、自分の生き方を考えさせます。考えさせる手立ては、「よりよい生き方とは」という観点で、出された意見を付箋で整理すること。自分たちは何を大切にしているかを意識させることで、考えを整理します。

### 手立てのメリット

- ① 自分のとる行動を考えさせることで、生き方につながります。
- ② 話合いの観点を示し、出された意見を整理、収束させます。
- ③ 今までの授業での考えを振り返り、生かすことができます。

### 手 立 て

よりよい行動を考えることで、自分の生き方につなげる  
**ステップ1**

中心発問として、自分ならどう行動するかを具体的に問う。

### ステップ2

出た意見を「よりよい生き方とは」という観点で整理する。

### ステップ3

みらいのたねカードで考えを蓄積する。

### ! ここは気をつけよう!

「よりよい生き方とは」という観点で、整理するとき、なぜその行動がよりよいと言えるのか、自分たちが何を大切に整理したのか、という理由を出合うことが大切です。話合いの結果、まとまらないことも考えられますが、意見交換をすることを重要視しています。理由を出させるためにも、発問は、具体的にどう行動するかを問うようにします。



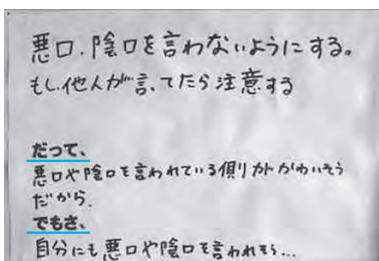
## ステップ 1

発問は、「思いやりとは何だろう。」や「なぜ思いやりのある行動はなぜ大切なのか。」という問い方ではなく、「こんなとき、あなただったら、どんな行動をとったらよいだろう。」のように行動を問います。

各自の考えを付箋に書き、「だって」の後にそう考えた理由、「でもさ」の後にその行動の問題点や反論を書き込み、個の考えを深めてから、話し合いを行います。

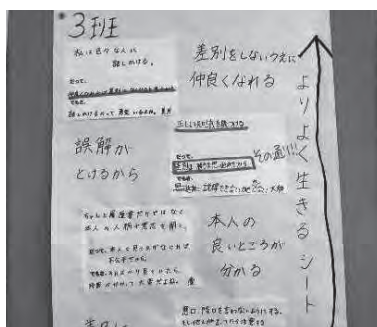
(付箋例)

これから差別をしないために、あなたはどの行動をしますか。



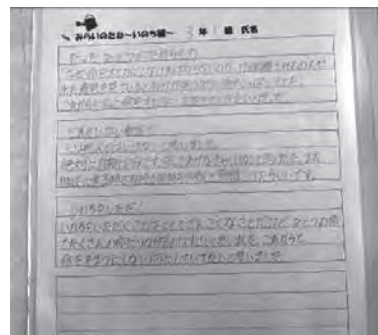
「だって」と「でもさ」は予め印刷しておきます

## ステップ 2



出された意見を「よりよい生き方とは」という観点で整理します。上に置いた付箋ほど生徒が「よりよい」と判断したものになります。大きな紙の余白にはそう考えた理由など、自由に考えを書き込みます。

## ステップ 3



重点項目として設定している「生命の尊重」と「思いやり」のついでに授業の振り返りで書いた文章を、「みらいのたねカード」に転記、または直接書き込んでいきます。一授業、一ワークシートになりがちな道徳の振り返りを継続して行うことで、自分の考えの変容に気づいたり、次の授業に生かしたりします。

### 指定研究会情報

#### 下越地区（阿賀野市胎内市北蒲原郡中教研）道徳教育研究発表会

◇研究主題：議論することにより、広い視野から生き方について考えを深める生徒の育成

よりよい生き方、選択を考えるファシリテーションを取り入れ、仲間と意見交換しながら、「いのち」と「思いやり」に関わって、自分の生き方考える授業を予定しています。

◇月 日：11月15日(水)

◇会場校：聖籠町立聖籠中学校

◇公 開：2学級 2年

「言葉の向こうに」2-(5)(B9)

授業者 竹内 文比古

3年

「寿命と永遠の命」3-(1)(D19)

授業者 丸山 翔

◇指導者：下越教育事務所  
聖籠町教育委員会

学校支援第2課 指導主事 若林 靖人  
子ども教育課 参事 新保 英博

# 総合的な学習の時間

## 実社会や実生活の中から 解決すべき課題を 設定する！



総合的な学習の時間部 全県部長  
新潟市立岩室中学校 大橋 英喜

「三人寄れば文殊の知恵」を授業の中でいかに実感させられるかがカギです。生徒が“学び合う授業”のよさや必要性に気付けば授業での学びは深化します。

実社会では、あらゆる取組や研究が組織的に行われ、他者と協働的に関わるのが求められています。探究的な学習を成立させる課題のポイントを紹介します。

### ポイント1 生徒が学習の主体となるよう学習過程を工夫する

「体験で終わっている。自分の意見や考えがない。」を克服するためには、学習課題が生徒一人一人にとって探究したいものになっている必要があります。

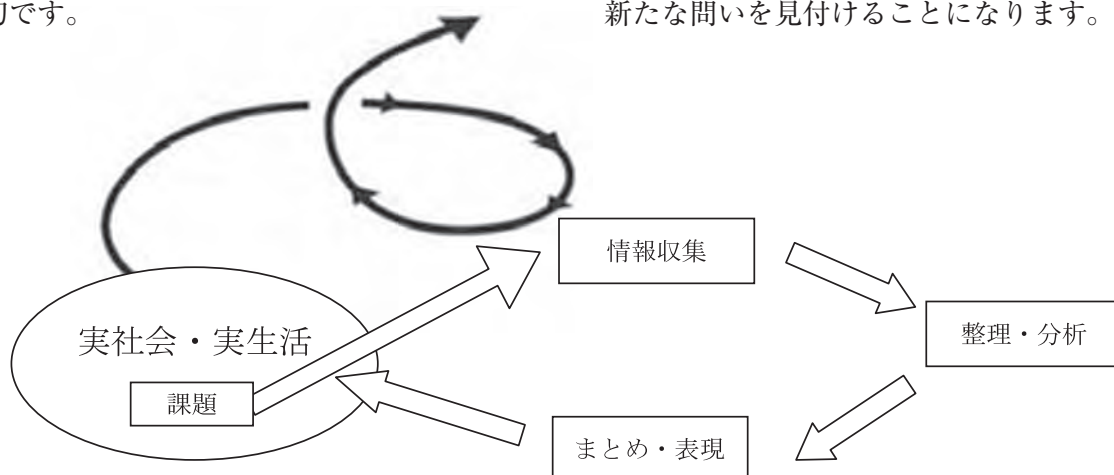
自分たちの住んでいる地域に目を向け、問いを見付けさせるのも一つの方法です。

情報収集においても、協働的に取り組むことが大切です。

整理・分析の際には、まず個でじっくりと考えさせた後、協働的な学習となるよう工夫します。

まとめ・表現の活動では、伝えたい内容がきちんと相手に伝わるようになっているか吟味が必要です。第三者に意見を求めることも有効です。

最終的な学習の成果は地域に還元され、また新たな問いを見付けることとなります。



## ポイント2 意見交流で考えを練り上げ深化させるためにFTを活用する

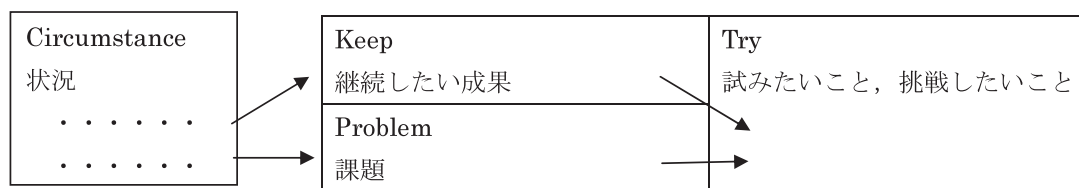
総合的な学習の時間は、自己の生き方を考える資質・能力の育成を目指しています。そのためには意見交流を通して、自分の考えを練り上げ、深化させることが有効です。

考えを見える化し、思考を深化させるツールには様々なものがあります。FTは現在、多くの学校で取り入れられ、成果を上げています。繰り返し行い、慣れることでより一層の効果が

期待できます。

例えば、KPTのフレームワークを取り入れることで、振り返り活動を充実させることが可能になります。

取組の問題点を指摘するだけでなく、ねらいや目標を達成したのかの視点を保ちながら振り返ることができます。



### 総合的な学習の時間 重点方針

学習過程と評価を中核に、主体的・対話的で深い学びが実現できるような学習指導を推進する。

- 学習過程において、「課題設定」を工夫し、「協動的な学習」と「言語活動」を適切に位置付けることを通して、探究的な学習の充実を図る。
- 「育てようとする資質や能力及び態度」の視点に配慮した評価の観点を定め、それに基づいて生徒の具体的な学習状況を想定した評価規準を設定し、学習評価の充実を図る。

### 総合的な学習の時間 学び合い10

①	指導計画の工夫	小学校での取組を踏まえるとともに、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、目指す資質や能力、態度が身に付くように計画している。
②	課題設定	日常生活や実社会に目を向けて、生徒自らが、「ひと・もの・こと」と自分との関わりの中から課題を設定している。
③	個の学びの設定	学習活動において、自分の考えや意見をもつことができるよう、個の学びを確かに設定している。
④	体験的な活動の工夫	体験活動を探究的な学習の過程に位置付け、他者と協働して活動できるよう工夫している。
⑤	交流の場の設定	学習対象をより多面的・多角的に捉えたり、自分の考えや意見を深めたり広げたりする交流の場を設定している。
⑥	学習環境の整備	図書館やPC室などで資料やICTを活用したり、校外でのフィールドワークを展開したりするなど、学習環境を整備している。
⑦	地域・家庭との連携	生徒が、日常生活や実社会との関わりの中で学習活動を展開できるよう、地域や家庭と連携を図っている。
⑧	話し合いや発表のルールや方法	話し合いや発表の目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑨	追究や表現の仕方の工夫	情報の集め方や調べ方、整理や分析の仕方、まとめ方など、目的や相手に応じた追究や表現の仕方の具体例を示したり、経験させたりしている。
⑩	振り返りの場の設定	自らの考えや意見の変容を述べたり、新たに見いだした課題が今後の自分の生き方とどのように関わるのかを述べたりする振り返りの場を設定している。

# 総合的な学習の時間 〈上越地区〉

## 地域の人と共に 貢献活動をFTで 練り上げる！



柏崎市刈羽郡学校教育研究会 生活科・「総合」研究部  
研究推進責任者(左) 柏崎市立南中学校 小松 久子  
会場校担当(右) 柏崎市立北条中学校 星野 健

地域の人・異学年とのFT(ファシリテーション)によって、より多面的、多角的な視点で地域貢献活動の構想を協働的に練り上げることができます。

### 手立て設定の理由

「ふるさと北条のために何ができるか」という観点から地域貢献を大きなテーマに据えて学習を行います。地域の人を招き、必要とすることをFTで引き出し、アドバイスをいただくことで計画をより良いものへと練り上げることができます。

予想理由を“理由付けチャート”で表すと、文章で書くときと比較して、次の3つの利点があります。

### 手立てのメリット

- ① 学習活動自体が、地域への発信力を持ちます。
- ② 地域の人と連携・協働した、地域で必要とされる貢献活動ができます。
- ③ アドバイスをいただくことで一層充実した内容が期待できます。

## 手 立 て

地域のニーズや声をもとに、自らの貢献活動をFTで練り上げる。

### ステップ1

地域へ貢献できる行動を考える。

### ステップ2

KPTを用いて計画を見直す。

### ステップ3

地域の人と話し合った内容をもとに計画を練り直す。



## ここは気をつけよう！

KPTによる話し合いでは、オープン・クエスチョンを用いて生徒自身が多面的、多角的な視点を獲得して計画を練り直すことがポイントです。それにより広がった見方・考え方から明確な根拠を得ることに迫ります。

## ステップ 1



市役所の企画政策課の方から地域の課題と具体的な施策を聞き、地域の課題や問題を自分事として捉えます。

「歴史・文化」「人」「自然」の3つの視点から地域を発展・継承させるために今の自分にできることをグループで計画します。



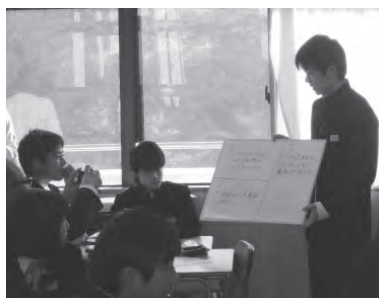
北条の自然を紹介したホームページを知らせるためのチラシです。多くの人に発信するための工夫も考え計画をしています。

## ステップ 2



Keep	Try
Problem	

計画した内容をKPTにより学級で練り直し、計画に基づいて活動します。



活動後はPDCAサイクルを機能させ、2回目の活動の計画を立てます。

## ステップ 3



2回目の活動計画を地域の人を招いてプレゼンテーションを行います。



その後、地域の人と共にKPTにより計画を練り直します。



地域の人からのアドバイスや具体的な改善内容を学級で共有し合います。

### 指定研究会情報

#### 上越地区（柏崎市刈羽郡中教研）総合的な学習の時間教育研究発表会

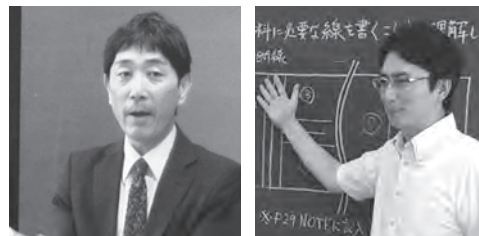
◇研究主題：生まれ育った地域の「歴史、文化」「人」「自然」の発展・継承  
～ファシリテーションによる練り上げ～

自分たちで計画した貢献活動を地域の人と共にKPTを通して練り直すことで、活動を自分事として捉えることができます。自分たちには無い視点でのアドバイスをいただくことで活動の質を高めていく授業を公開します。

- ◇月 日：10月27日（金）
- ◇会場校：柏崎市立北条中学校
- ◇公 開：3年1組 授業者 内山 至, 中橋 寿夫, 星 靖子
- ◇指導者：柏崎市立教育センター 副所長 古川 勝哉

# 総合的な学習の時間 〈中越地区〉

多様な学習活動を  
展開することにより、  
学び合いの深化を  
図ります！



長岡市中教研 総合学習部

研究推進責任者(左) 長岡市立東北中学校 渡邊 健実  
会場校担当(右) 長岡市立中之島中学校 梅田 茂明

ウェビングやKP（紙芝居プレゼンテーション）法等，可視化を意識した多様な学習活動を展開することで，交流活動の活性化が図られ，自己の学びを振り返ることができるようになります。

## 手 立 て

多様な学習活動を職場体験学習の前後に取り入れ，個人テーマを追究する。

### ステップ1（体験前）

事前訪問後，個人テーマ決定。

### ステップ2（体験後）

個人テーマから学んだことを整理・確認。共有。

### ステップ3（体験後）

学んだことを自分の生活に結び付ける。分析。

### 手立て設定の理由

職場体験学習は働くことの意味や働く人の夢や願いを知るよい機会です。単に労働体験に留まらず，実社会や実生活との関わりの中から，今，自分を成長させるために何が必要かを見いだすことを目指します。そのために，多様な学習活動を実践することで，学び合う授業を創造します。

### 手立てのメリット

- ① 個人テーマを設定することで，自分の将来に対する考え方の事前事後の変化が理解できます。
- ② 交流活動の活性化を図ることにより，実践意欲を高めることができます。



## ここは気をつけよう！

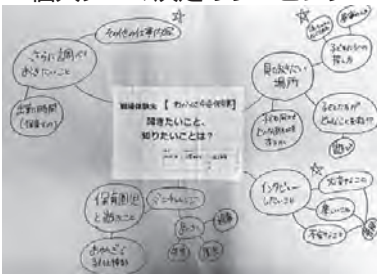
個人テーマを「どの職業にも関連するもの」「体験等をして解決するもの」という条件をふまえて決定します。それによって，生徒たちはその後，どの学習活動にも積極的に学び合おうとします。そのためには，生徒が自分との関わりで個人テーマを決定する授業での教師の働きかけが重要です。どのタイミングで，どのように行うか，あらかじめ考えておきましょう。

## ステップ 1

学年でFT基礎講座



個人テーマ決定のウェビング



昨年度は学年でFT基礎講座を行ってから、職種別の少人数グループでウェビングに取り組みました。

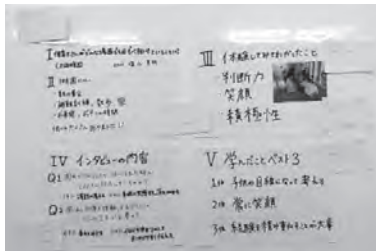
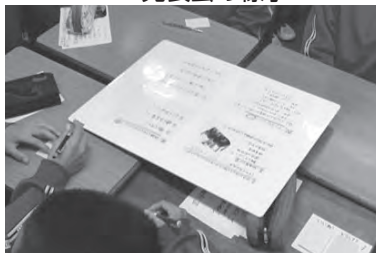
今年度は全校体制を整え、全教科でFTを活用した授業に取り組んでいます。

## ステップ 2

同じ職場で2日間実施



KP発表会の様子



KP法は効率よく発表でき、聞き手に内容が伝わりやすい。発表後、ポスターセッションで、個人テーマと学んだことの関連性を確認し、共有します。

## ステップ 3

ウェビング後、  
個人フレームワークより整理

職場体験で学んだこと (Keep, Learn)	これからの行動 (Try)
仕事には、品質、コスト、納期が大切	品質→学習の質を高める
自分の生活の問題点 (Problem)	納期→理髪時間を守る
・コストの点数が上がらない	コスト→部活と勉強を両立できる
・進学が心配	

Aさん

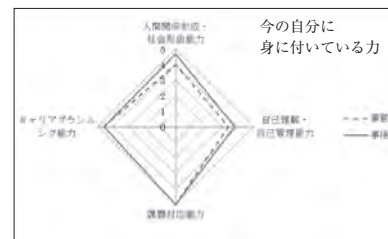
職場体験で学んだこと (Keep, Learn)	これからの行動 (Try)
仕事では、学歴が一番大事	学歴はこだわらない
自分の生活の問題点 (Problem)	計画的に学歴を上げて行動する
・学歴が低く評価されない	
・時間が足りなくなり、あわてる	

Bさん

職場体験で学んだこと (Keep, Learn)	これからの行動 (Try)
仕事の目的は、お客様に喜んでもらうこと	学活や生徒の仕事を真剣に取り組む
自分の生活の問題点 (Problem)	客の感情状態のイイし理解を覚悟する
・得意にうまく話せる	
・集中力が続かない	

Cさん

レーダーチャートで  
事前事後の振り返り



振り返りアンケートは「新潟っ子プラン」を基に作成しました。生徒たちは客観的なこのデータの考察を利用し、個人レポートをまとめます。

### 指定研究会情報

中越地区（長岡市・三島郡中教研）総合的な学習の時間教育研究発表会

◇研究主題：今の自分を見つめ直し、これからの生活に生かそうとする生徒の育成  
～個人テーマによる追究をもとに学び合う職場体験学習を通して～

生徒は前時で、個人テーマと職場体験学習で学んだことの関連性を確認しています。本時は、この続きで、学んだことからウェビングを通し、自分の生活と結び付けます。それを個人フレームワークにより整理し、今後の生活に生かすことを考える授業を予定しています。

- ◇月 日：11月22日（水）
- ◇公開：1学級 2年 授業者 大内 広樹
- ◇指導者：中越教育事務所 指導主事 北島 豊  
長岡市教育委員会 指導主事 下村 恵美

# 総合的な学習の時間 〈新潟地区〉

## 3年間で段階的に 地域と関わる 防災学習 !!



新潟市中教研 総合学習部

研究推進責任者(左) 新潟市立山の下中学校 関根 立志  
会場校担当(右) 新潟市立松浜中学校 岩本 潤

地域との関わりを大切にし、系統的、発展的に学習することで、命を守り災害に対応できる生徒を育成します。

### 手立て設定の理由

防災について学習しても知識の蓄積に終わり、実際に役立たなかったり、通り一遍の確認で終わってしまったりする場合があります。

地域防災の課題を、地域の人意見聞くなど、実体験を取り入れ、自分にできることを考え、成果を地域と共有することで次のような利点が生まれます。

### 手立てのメリット

- ① 3年間で系統的に学習できます。
- ② 地域と関わる事で地域に特化した学習を進められます。
- ③ 地域に貢献できることを学び、自己肯定感、有用感をもてるようになります。

### 手 立 て

地域との関わりを大切にした活動を取り入れ、主体的に学習する

#### ステップ1 (1年)

防災マップ作りを通して、地域と関わり、松浜地区の特性を知る。

#### ステップ2 (2年)

避難所運営ゲーム(HUG)を通じて、自校での避難所運営を考える。

#### ステップ3 (3年)

地域の一員として防災を考え、学んできたことを地域と共有する。



### ここは気をつけよう！

3年間で系統立てた段階的な学習を目指します。各学年で地域と交流する活動を取り入れ、一般的な知識よりも、地域に根ざした活動を行い、自校化や松浜地域に特化した内容や、幼児、高齢者など対象者を意識した活動を心がけます。



## ステップ 1



実体験から地域の特性を知り、防災上の問題点を探します。

自分の意見をもって話し合いを行い、地域の課題は何かを発見します。

1年「知る活動」

## ステップ 2

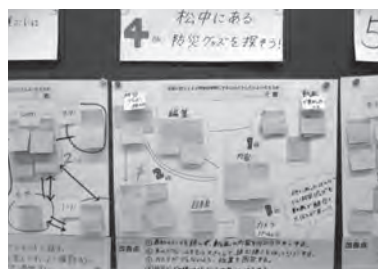


避難所運営ゲーム（HUG）を通じて避難所での対応を学びます。

自分たちの学校が避難所になった時に何ができるかを考えます。

2年「考える活動」

## ステップ 3



防災・減災について学んできたことをまとめます。

地域に住む様々な人々に向けて効果的に伝える方法を考えます。

3年「共有する活動」

### 指定研究会情報

#### 新潟地区（新潟市中教研）総合的な学習の時間教育研究発表会

◇研究主題：生きる力の育成を目指し、問題解決や探究活動に、主体的、創造的、協同的に取り組ませる活動の工夫 ～地域と関わる防災学習～

3年間を見通した防災学習 1年生 防災を知る 2年生 地域の防災について考える  
3年生 防災・減災のできることを実践し、共有する

◇月 日：11月8日（水） ◇会場校：新潟市立松浜中学校

◇公開：全学級 1年3学級 2年4学級 3年4学級

◇指導者：新潟青陵大学 教授 岩崎 保之  
新潟市立総合教育センター 指導主事 山本 政義  
新潟市教育委員会学校支援課 指導主事 脇野 哲郎

# 総合的な学習の時間 〈下越地区〉

## 学習の成果を評価，助言 し合い，自他の考えを 広げ，深める！！



二市・北蒲中教研 総合学習部

研究推進責任者(左) 胎内市立乙中学校

内山 秀実

会場校担当(右) 阿賀野市立水原中学校

菅 聡男

地域を柱とした学習で，自己や地域を考える機会をつくります。  
学習のまとめ，発表の場面で意見交換をすることで，考えを広げたり  
深めたりすることができ，汎用的能力も向上していきます。

### 手立て設定の理由

学習のまとめを発表する際，発表に対する質問，感想のみを述べて終わることが多いです。ここに相互評価とアドバイスなどの意見交換を加えると，互いのレポート・発表や考察内容について，より深く考えるようになります。考え方，技能等の深まり，広がり，向上が期待できます。

### 手立てのメリット

- ① 仮レポート発表と意見交換で，完成形の見通しをもちやすくなります。
- ② 視点を明確にすることで，評価やアドバイスをしやすくなります。
- ③ 意見交換により，レポートや発表の技能等の向上，考えの深化が図れます。

### 手 立 て

他と関わり合いながらレポートや発表の改善，向上を図る。

#### ステップ1

まとめの仮レポート発表をする。

#### ステップ2

視点を明確にして評価を行い，レポートや発表へのアドバイスを交換する。

#### ステップ3

アドバイスを基に，レポートや発表内容等の改善・向上を図る。



### ここは気をつけよう！

評価や意見交換をするとき，個人の中で完成した発表であると，他からの意見を聞き入れにくくなります。そこで，完成形に近付けた状態の仮レポートの発表をさせます。

また，評価の観点が多すぎると，評価に時間がかかり，意見交換の時間が確保できなくなります。感じたままに意見交換できるように，評価と意見交換の調整が必要です。

## ステップ 1



見本で完成形をイメージする。

↓  
学習の成果をまとめて  
「仮レポート」を作成する。



「仮レポート」を発表し合う。

個人やグループでの学習のまとめを「仮レポート」として発表します。こんな工夫をする等の構想も伝えます。

## ステップ 2

発表を見て、聞いて、評価をする。評価の視点は次の2点。

- ① レポートの内容・構成
- ② 発表の工夫・態度



↓  
受けた評価、アドバイスを  
まとめる。



↓  
評価、アドバイスから考えた  
改善点をまとめ、共有する。

評価やアドバイスなどを交換することで、レポート内容や伝え方などをどのように工夫・改善すればよいかを考えるヒントを得ることができます。

## ステップ 3



交換したアドバイスを基に、  
レポート内容の改善を図る。

↓  
発表原稿や発表のしかたなど  
を工夫し、完成させる。



↓  
発表会で、成果を生かした  
発表ができる。

他からのアドバイスを生かし、改善点を考えることや、伝える練習を繰り返すことにより、考えを伝える技能を高めることができます。総合的に汎用的能力が向上していきます。

### 指定研究会情報

#### 下越地区（二市北蒲中教研）総合的な学習の時間教育研究発表会

- ◇研究主題：郷土の環境や人との交流を通して、主体的に探究し、自らの考えを広げ深める授業の工夫

身近な地域（郷土）を柱とした系統的な学習を行う中で、他との関わりの中から地域や自分自身の未来を考えていく。その学習の中で、発表場面での意見交換を意図的に行うことにより、伝え方や考え方のよさや改善点に気づき、自分の考えは広がり、深まります。

- ◇月 日：11月21日（火） ◇会場校：阿賀野市立水原中学校

- ◇公 開：5学級 3年「卒業研究発表会」

授業者 堀田 和恵, 荒井 仁, 清水 拓也, 渡邊 朋子, 石井 智子

- ◇指導者：県立教育センター 指導主事 阿部 一晴

### 3 指定研究 1 年目の進捗状況

今年度、指定研究 1 年目の研究チームは、1 ヶ月早くチームを立ち上げました。目指す生徒像をメンバーで共有し、単元構想シートを活用しての検討などをおこない、秋のプレ授業に向けて研究を進めています。  
各チームの進捗状況を紹介します。



# 社会

## 根拠に基づいた論理的思考と内省的思考で学び合いを深めよう

知識基盤社会で求められるのは批判的思考力です。「単元構想シート」を活用し、証拠に基づく論理的思考と自らの考えを振り返る内省的思考を促す授業に挑戦します。



全県部長  
燕市立燕北中学校  
校長 松井 淳

### ▶ 上越地区

#### 郡市共通の課題を探る !!



柏崎市刈羽郡中教研  
柏崎市立東中学校  
関野 道也

郡市全ての中学校にアンケートを行い、郡市に共通する課題は何かを協議しました。これを踏まえ、「主体的に追究する生徒の育成」を目指し、郡市としての研究主題を練り上げ、設定します。

郡市内のアンケートを基に研究主題を検討



### ▶ 新潟地区

#### 郡市6校で公開授業を実施！



燕市西蒲原郡中教研  
弥彦村立弥彦中学校  
井上 北斗

研究主題は「根拠をもって意見を形成し、課題解決を図る生徒の育成」です。9月～12月に、郡市6校が持ち回りで公開授業を実施し、授業改善を目指します。

8月2日に行った第3回研究推進委員会(単元構想検討会)



### ▶ 中越地区

#### 「深い学び」の姿を共有！実践へ！



長岡市三島郡中教研  
長岡市立江陽中学校  
高橋 信之

推進委員会で目指す生徒の姿を検討し共有しました。常に資料やデータに立ち返って思考をする生徒、根拠に基づいて「批判的思考」をする、学び続ける生徒を目指します。

研究主題  
「根拠に基づいて課題を追究し続ける生徒の育成」(仮)



### ▶ 下越地区

#### 目指す生徒像を共有 !!



二市北蒲中教研  
胎内市立乙中学校  
新井 達夫

第1回推進委員会では、生徒の実態から私たちが目指す生徒の学びの姿をFCで共有しました。根拠を明確にしながら学び合い、自分の考えを再構築する生徒を目指します。

二市北蒲中教研で単元構想シートを検討しました



# 理科

## 目指す生徒の姿の実現のためには、どのような手立てが有効か？

「課題設定はどうするか?」「学び合う場面どう設定するか?」「どんな手立てを行うか?」など、目指す生徒の姿を実現するために、先生同士の学び合いからスタートしています。



全県部長  
新発田市立豊浦中学校  
校長 石坂 均

### ▶ 上越地区

#### 科学的に探求する力を！



糸魚川市中教研  
糸魚川市立糸魚川東中学校  
阿部 信貴

理想の学び合いを実現するために必要な手だてを2次元マトリクスにまとめて、共通理解しました。実現可能性の高い実践を検討し計画をつくりました。

糸魚川市内4校のチームワークで小回りのきいた実践交流



### ▶ 新潟地区

#### 真の問題解決的な学習の展開を！



新潟市中教研  
新潟市立小新中学校  
富山 浩喜

身の回りの自然現象の原因等について、分かっているつもりだった生徒が、強い問題意識に揺り動かされて、どうしても解決したくなる学習を具現します。

秋に、中之口中・小新中で授業公開を予定



### ▶ 中越地区

#### 教師の学び合いで研究推進！

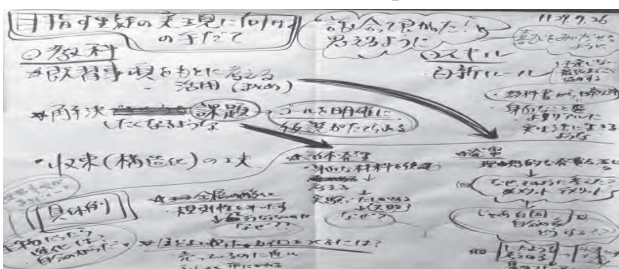


三条市中教研  
三条市立第一中学校  
京野 隆

これまで生徒の現状や目指す姿、学び合いの手立てについてFTで共有しました。

今後は研究主題を決め、授業構想を練りながら、チームで目指す姿に迫っていきます。

「目指す姿の実現に向けての手立て」FTの記録



### ▶ 下越地区

#### 授業研究の成果を次の授業へ！



阿賀野市胎内市北蒲原郡中教研  
阿賀野市立笹神中学校  
小林 寿

研究主題に沿って6人の委員がリレーで授業公開をします。学び合いを通して育てたい生徒像を共通理解し、手立ての有効性を検証しながら、成果の蓄積と共有を目指します。

7月28日に実施した第1回研究推進委員会の様子



# 英語

## 単元構想シートとバックワードデザインで、見通しをもった授業づくり

英語科での学び合いをどのように捉え、表現力の向上にどのようにつなげていくか。各地区で、FTを通して目指す姿を共有し、全員参加型の授業づくりに取り組んでいます。



全県部長  
長岡市立秋葉中学校  
校長 鷺尾 哲郎

### ▶ 上越地区

#### 「目指す姿」を意見交換！



上越市中教研  
上越市立直江津中学校  
神戸 邦子

次期学習指導要領のポイントを推進委員で確認しました。その上で、「対話的な学習」「学び合い」をキーワードに指導の方向性を模索しています。

推進委員会で検討中…「英語」での「学び合い」とは？



### ▶ 新潟地区

#### 今年のバトンはスピーキング！



新潟市中教研  
新潟市立寄居中学校  
高田 哲也

11月までに授業研究を8回行います。スピーキングに焦点を当てた授業を見合い、成果と課題を次の授業者へと繋いで、手立ての有効性を検証します。

小針中学校・中川教諭による2年生の授業より



### ▶ 中越地区

#### 目指す姿を検討、共有しました！



十日町・中魚中教研  
十日町市立十日町中学校  
大矢 寿和

英語の授業を通して目指す学び合う姿やその実現のための手立てなどについてFTを行いました。

今後、各学校の実態を踏まえ、指導案検討会や推進委員による授業実践を行っていきます。



研究推進委員会での様子。FTを用いて研究主題を検討しました

### ▶ 下越地区

#### 研究主題を検討中



新発田市中教研  
新発田市立本丸中学校  
桜井 洋子

第2回研究推進委員会では、目指す姿実現のための手立てについて話し合い、研究主題を検討しました。今後、指導案検討会を行い、授業実践を行って行く予定です。

手立てについての話し合い



# 音楽

生徒が主体的・共同的に音楽のよさを追求する活動を仕組むことで、音楽を追求する喜びを味わわせることができる

各地区で、創作活動、和楽器等の楽器による表現活動、地域教材を用いた表現活動など、多様な表現方法を取り入れた授業実践を行います。生徒が音楽を追求する喜びを味わわせるための話し合いの場面やグループ活動、環境整備が授業のポイントになります。



全県部長  
柏崎市立高柳中学校  
校長 笠井 克人

## ▶ 上越地区

音を介した学び合いの姿を追求



上越市中教研  
上越教育大学附属中学校  
岩澤 正顕

生徒一人一人が音楽へのあふれる思いをもち、それを音と言葉とで学び合う姿を追求しています。11/14にプレ授業を行い、具体的な手立てについて検討を重ねていきます。

7月4日に上越市立清里中で行われた公開授業(創作)の様子



## ▶ 新潟地区

質を高める話し合いを目指して！



新潟市中教研  
新潟市立新潟柳都中学校  
熊木 勤治

研修部のメンバーが集まって、指導の構想を話し合いました。「話し合い」→「質を高めて」→「演奏につなげて」という流れを組み込むことで方向が決まってきました。

第1回研究推進委員会の様子



## ▶ 中越地区

「長岡甚句」を歌います！



長岡市三島郡中教研  
長岡市立旭岡中学校  
岡村 真由美

郷土の音楽「長岡甚句」の歴史や背景を知り、鑑賞を通して民謡独特の発声法や歌い方について気づき、考えを深めます。最終的には「長岡甚句」にふさわしい声で歌います！

長岡市立西中学校で授業公開を行いました



## ▶ 下越地区

何が課題か？ 何をを目指すのか？



阿賀野市胎内市北蒲原郡中教研  
胎内市立築地中学校  
遠藤 明子

学び合う姿を実現させるために、音楽要素の理解や表現する上で思いや考えが欠かさないということをFTによって共通理解できました。一步一步前進中です!!

FTで研修テーマ思考中!!  
授業のアイデアも続々出てきました





# 学校保健

## 生涯を通じて心も体も健康でいてほしいと願いを込めての健康教育

生徒一人一人に、自分自身の健康課題として捉えさせることができるような健康教育を目指しています。指導したことが生徒の日常の実践につながり、さらには将来に生かせる指導になるよう思案中です。



全県部長  
村上市立朝日中学校  
養護教諭 相馬 明子

### ▶ 上越地区

#### 命の大切さを考える健康教育を求めて！



上越市中教研  
上越市立直江津中学校  
花溪 章子

第1回研究推進委員会では、イメージマップを活用し、「命の大切さについて考える健康教育」で目指す生徒の姿を共有するためにFTを行いました。それらの意見をもとに、命の大切さを育む視点を設定し、授業や体験活動を実践して検証していきます。



研究推進委員のFTの様子

### ▶ 中越地区

#### 生徒が主体的に学び行動する保健指導を！



魚沼市中教研  
魚沼市立湯之谷中学校  
佐藤 ひとみ

自分の健康について、気づき、考え、自己決定をして行動する。結果を振り返って更なる改善につなぐ。

このプロセスを支援する保健指導のあり方を追求し、魚沼市の温かい学級づくり支援事業とともに取り組んでいきます。



KPTを用いた授業構想検討(第3回研究推進委員会)

### ▶ 新潟地区

#### 保健指導における効果的なFT活用！



新潟市中教研  
新潟市立松浜中学校  
松本 恵

6月に保健指導におけるFTの活用について研修を行い、8月には構想カードを作成し、指導案検討を行いました。11月にはプレ公開授業を行います。生徒同志のかかわり合いとFTをどう活用していくか検討中です。



8月3日  
研修会での指導案検討

### ▶ 下越地区

#### ケース・スタディを通してレジリエンスを高める授業の工夫！



五泉市・東蒲原中教研  
五泉市立川東中学校  
木村 美恵子

研究推進委員会でFTを行う目指す姿を共有するところから始めました。

保健指導を通して不安や悩みを柔軟に解決する生徒の育成を目指します。

11月には、プレ授業を行います。



FTで研究主題の検討

## 4 授業ナビゲーション

---

学び合う授業をつくるために必要な研究・研修  
学びのプロセスとFTの基本プロセス



県中教研で開発した授業ナビゲーション（授業スタンダード、研修体制7・Web配信3、学び合い10）と15部会の重点方針を掲載します。

また、「学び合う授業の創造」の取組に関して、研究・研修と学びのプロセスとFTの基本プロセスについて紹介します。

## 県中教研 授業ナビゲーション

### 授業スタンダード10

①	指示・発問の明確化	生徒の活動を止めるなど注目させて、明確な指示や発問をしている。
②	授業のめあてと流れの提示	授業のめあてと授業の流れを生徒に示している。
③	配色やノートを意識した板書	配色や生徒のノートづくりを意識し、板書やワークシートを工夫している。
④	評価カード等での振り返り	評価カードや小テスト等で授業の振り返りをしている。
⑤	忘れ物への対応	予備ワークシートや予備教具を準備し、忘れ物に対応している。
⑥	内容・準備の事前連絡	学習内容や準備するものを事前に伝えている。
⑦	開始終了時刻の厳守	授業の開始時刻、終了時刻を守っている。
⑧	教室前面の掲示物の簡素化	教室の前面には配色を意識して、必要なものだけを掲示している。
⑨	机の上の整理	机の上には必要なものだけを置くようにさせている。
⑩	座席・グループの配慮	特別に支援を要する生徒や人間関係に配慮して座席やグループを決めている。

### 研修体制7

①	(研修) 課題の抽出と目標の設定	(研修) 現状から課題を抽出し、明確な目標を設定している。
②	(研修) 課題と研修目的の共有	(研修) 課題と研究の目的を全教員が共有している。
③	(研修) 年1回以上の研究授業	(研修) 年間1回以上は全教員が研究授業をしている。
④	(研修) 事前事後の検討会	(研修) 研究授業は事前・事後に検討・協議会を組織し、実施している。
⑤	(研修) 他教科や他校職員の参加	(研修) 研究授業では、その教科以外の教員や他校教員が参観している。
⑥	(研修) 参画型の検討会	(研修) 検討・協議会は、ワークショップ型など参加者全員の参画を図っている。
⑦	(研修) 外部指導者	(研修) 外部から指導者を入れて研究授業を行っている。

### Web配信3

⑧	(Web) 全校体制での実施	(Web) 実施監督や採点、入力などを分担する体制ができている。
⑨	(Web) 時間・座席等の環境整備	(Web) 校時表に組み入れたり、テスト用の座席にするなど、環境を整え実施している。
⑩	(Web) 結果の共有と改善	(Web) 結果を分析・共有し、補充学習や授業改善を全校体制で行っている。

学び合い10 (国語)		
①	生徒の理解・認識の把握	生徒個々の学習状況に基づいて授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解度や表現力の実態を把握し、単元単位で目標や指導計画を立てている。
③	魅力ある課題の設定	生徒の興味関心を喚起し、学習意欲を高める課題を設定している。
④	学習形態の工夫	ねらいと実態に応じた、個別・ペア・班・全体等の適切な形態を取り入れている。
⑤	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑥	学び合いを支える言語事項の充実	漢字、文法、語彙、語句の用法、記述の方法等の理解・定着を図っている。
⑦	正確な理解と適切な表現	根拠を明確にして、自分の考えを形成し、論理的、想像的に表現する学習場面を設定している。
⑧	豊かな言語感覚の育成	文体や文脈中の語句が醸し出す味わいに注目して読み取ったり、表現したりする学習場面を設定している。
⑨	日常生活や社会生活との関連	日常生活や社会生活との関連を図って学習を進めている。
⑩	言語活動の充実	ねらいに応じた言語活動を通して、考えを広げたり深めたりするよう工夫している。

学び合い10 (社会)		
①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態や既習事項を把握して授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位で目標や指導計画をたてている。
③	生徒が興味・関心をもつ課題設定	生徒が好奇心をもったり、学習意欲が高まったりするような課題を設定している。
④	学習形態の工夫	課題解決のために一斉・個・ペア・グループなどの学習形態を場面ごとに設定している。
⑤	日常生活や社会との関連	生活とかかわらせたり、ニュースなどを活用したりして授業を進めている。
⑥	話し合いの目的やルールの明確化	話し合いのルールや方法を具体的に提示している。
⑦	考察場面の設定	根拠をもとに多角的に考察し、様々な方法で表現する場を設定している。
⑧	図・表・資料等の適切な活用	図・表・資料などを適切に読み取り、事実にもとづいて自分の考えを表現する活動の充実を図っている。
⑨	意見交換の場面の設定	⑧との関連を図りながら、他の意見を聞き、自分の考えを深めさせている。
⑩	評価・振り返り	他者評価や自己評価を評価シートなどで評価し、自分の学習活動を振り返る場面を設定している。

学び合い10 (数学)		
①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態やつまづきを把握して授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位で目標や指導計画をたてている。
③	必要感・達成感のある課題	生徒の認識とのずれや適度な困難度がある課題を出している。
④	ペア・グループによる学習	ペア学習や3～5人によるグループ学習を取り入れている。
⑤	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑥	生徒どうしに関わりあう場	発表会で終わらず、生徒どうしに関わりあう場を取り入れている。
⑦	家庭学習の充実	授業と関連付けて課題を出したり、点検をしたりしている。
⑧	原理や法則との関連	数学の原理や法則との関連を意識させる授業を行っている。
⑨	日常生活や社会との関連	日常生活や社会との関連を図って学習を進めている。
⑩	図・表・式等の言語活動の充実	生徒の考えを図・表・式等の数学的表現で表す言語活動の充実を図っている。

## 学び合い10（理科）

### <理科授業スタンダード5>

①	生徒の素朴概念の把握	生徒の素朴概念を把握して、授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位の目標や指導計画をたてている。
③	基本操作の充実	観察・実験に必要な操作ができるように支援している。
④	直接体験の重視	直接体験を重視した観察・実験を行なっている。
⑤	日常生活との関連	学習内容を日常生活と関連させて考えさせる授業をしている。

### <理科学び合い5>

⑥	問題意識をもたせる事象提示	感動や驚きを誘発し、問題意識を高める事象提示をしている。
⑦	根拠をもとにした予想理由の検討	事象に対し、既習事項と関連させて予想理由を検討している。
⑧	仮説を検証する実験方法の工夫	仮説や予想を確かめるための観察・実験方法を考えさせている。
⑨	気づきを工夫しながらの観察・実験の工夫	生徒の気づきを大切にしながら観察・実験を行わせている。
⑩	結果をもとにした考察の意見交換	観察・実験の結果にもとに結論を導き、生徒同士の意見交流を通して考えを深めさせている。

## 学び合い10（英語）

①	学習環境	支持的風土のある学習集団づくりをしている。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解度や英語の運用能力など生徒の実態を把握した上で、単元単位の目標や計画を立てている。
③	生徒の興味・関心を喚起する課題設定	生徒の知的好奇心を刺激したり、学習意欲を高めたりするような課題を設定している。
④	「練り合い」場面の設定	生徒が協働して表現方法を練り上げる場面を設定している。
⑤	個の学習の確保	生徒が自分の意見や考えを確かめたり深めたりできるよう、「1人学びの時間」を十分確保している。
⑥	ペア・グループによる学習	生徒の実態や、ねらいに応じた適切な形態（グループ・ペア）と構成を、意図的に選択して行っている。
⑦	活動の手順、ルール周知	活動の手順やルールを明確に提示している。
⑧	役割分担	全員が活動に参加できるように、個人の課題や役割分担を明確に提示している。
⑨	4技能	4技能の使用バランスや、4技能が統合的活用できる課題を設定している。
⑩	評価・振り返り	ねらいや大切なポイント（評価シート等で）理解させた上で生徒が自分の活動を振り返る場面を計画的に設定している。

## 学び合い10（音楽）

①	学習環境	支持的風土のある学習集団づくりをしている。
②	題材の目標・指導計画	生徒の技能等の実態を把握した上で、目標や計画を立てている。
③	魅力ある課題の設定	生徒の興味関心を生かした課題の工夫をしている。
④	〔共通事項〕の取扱	〔共通事項〕について、それらの働きを生徒が実感し、表現や鑑賞の学習に生かすことができるよう配慮している。
⑤	活動の手順、ルール周知	活動の見通しが分かるよう活動の手順・ルールを明確に提示している。
⑥	学習形態	生徒の実態や、ねらいに応じた適切な形態（パート・ペア等）と構成を選択し、役割等を明確に提示している。
⑦	基礎的な表現の技能	基礎的な表現の技能を身に付ける指導を題材の中で適切に位置付けている。
⑧	表現の工夫	表現したい思いや意図にもとづき、要素の働きを試行錯誤する場面を設定している。
⑨	言語事項	感じ取ったことや考えたことを音楽に関する用語などを用いて言葉で表す活動の充実を図っている。
⑩	評価・振り返り	ねらいやポイント（評価シート等で）に即して活動を振り返る場面を設定している。

学び合い10 (美術)		
①	題材と目標と指導計画	生徒の発達段階や生活体験, 学習状況に基づいて, 指導計画や授業構想を立てている。
②	魅力ある題材の設定	造形的な知的好奇心を刺激したり, 学習意欲を高めたりするような題材を設定する。
③	対話や創作活動から自己を見つめる	言語等を用いて, 色や形などを観点に交流したり, 振り返ったりする場面を設け自己理解を促している。
④	造形的な技能の習得	表現しようとする意図に応じた技法や表現方法を試したり, 材料を体験したりする場面を設けている。
⑤	造形的な環境づくり	美術室をはじめ, 校内に日常的に作品を鑑賞できる環境を整えている。
⑥	鑑賞授業の充実	創造活動にかかわることや世界と日本の文化等の鑑賞授業を行う。
⑦	美術館・大学等との連携した活動	美術館や大学, 関係諸機関等との関わりをもち, 人材・作品・資料等を活用しようとしている。
⑧	地域文化や行事の活用	身近な地域から題材を取り上げ, 生徒の体験・経験を生かした交流活動や創作活動をしている。
⑨	日常生活との関連	身の回りの日用品等に目を向け, 機能や美しさを追求したり, 生活を豊かにする美術の特性について気付いたりする活動を設けている。
⑩	他者との関わり合い	表現活動において, 用途や機能を基に交流したり, 検討したりを通して, 相手意識をもって発想したり構想したりする活動を行っている。

学び合い10 (保健体育)		
①	生徒の理解・実態の把握	生徒の実態やつまづきを把握して授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や技能の習熟度を把握し, 単元単位で目標や指導計画を立案している。
③	ねらいの明確化	本時のねらいを明確に示している。
④	必要感・達成感ある課題の設定	生徒が自己の達成度やつまづきを理解し, 主体的に取り組める課題を設定している。
⑤	学習の見通しの提示	課題解決に向けた見通しを持たせる工夫をしている。
⑥	発問・説明, 肯定的なかかわり	思考や気づきを促す発問や説明がされたり, 賞賛・助言・励まし等, 肯定的にかかわったりしている。
⑦	場の設定	課題の発見や課題解決を促す場づくりがされている。
⑧	学習形態の工夫	ペアやグループなどかかわり合いの場を設けている。
⑨	話し合いのルール・方法の明確化	話し合いの目的を明確にし, ルールや方法を具体的に提示している。
⑩	評価・振り返り	学習カード等を活用し, 授業の振り返りをさせ, 次時への課題をもたせている。

学び合い10 (技術・家庭)		
①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態や既習事項, 他教科との関連を把握して授業を構成している。
②	題材の目標・指導計画	題材で身に付けさせたい力を明確にし, その実現に有効な“学び合い”の場を位置づけて計画している。
③	興味・関心のある課題	問題意識や学習意欲を高めるために, 身近な事象や好奇心をもてる事象から課題を設定している。
④	学習形態の工夫	ねらいと実態に応じて, 個・ペア・グループ・一斉などの学習形態を場面ごとに工夫している。
⑤	かかわり合う場・協力する場	学習の深まりや課題解決を図るために, 教え合い, 共同作業, 話し合い, 発表の場などを取り入れている。
⑥	かかわり合いの目的・ルール・方法	目的を明確にし, 話し合い, 発表など, それぞれルールを具体的に提示している。
⑦	実践的・体験的な活動	生活や社会で活用できる知識・技能の習得のために, 実践的・体験的な学習活動を設定している。
⑧	言語活動の充実	自分の考えや学習結果を言葉・文字・記号・図表などを活用して表現したり, 伝えたりする場を設定している。
⑨	生活や社会との関連	学んだことをもとに, よりよい生活や社会の実現について, 自分の考えをもたせるように学習を進めている。
⑩	評価・振り返り	学習活動を振り返ったり, 次の学習につなげたりするために, 観点を明確にした評価の場を設定している。

学び合い10 (道徳)		
①	学習環境と実態把握	グループや全体において自分の考えを主張でき、他者の考えを認め合う支持的風土を育て、生徒の実態や道徳性の高まりを把握して授業を構成している。
②	組織的な取組の推進	校長や道徳教育推進教師のリーダーシップのもと、組織的に全体計画・年間指導計画等を作成し、年間35時間の道徳科を量的に確保している。
③	自分の問題として捉える課題設定	「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」を実現する課題を設定している。
④	「考え、議論する道徳への転換」のための指導方法の改善 (質の高い多様な指導方法)	読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習で、自分との関わりにおいて多面的・多角的に考え、道徳的価値の理解を深める授業を工夫している。
⑤		生徒が生きる上で出会う様々な道徳的諸価値に関わる問題や課題を自分事として考えるなどの問題解決的な学習を設定している。
⑥		様々な問題や課題を主体的に解決するために、道徳的行為に関する問題場面で実感を持って理解できる体験的な学習を設定している。
⑦	他者の考えに触れ、議論を深める場の設定	ファシリテーション等で多面的・多角的に考えを拡散し、構造化する。フレームワーク(思考ツール)で生徒の考えを可視化し、道徳的価値の理解や自覚を深め、納得解・最適解を獲得している。
⑧	よりよい生き方を考え、振り返る場の設定	本時または一定のまとまりの中で道徳科の学習を振り返り、可視化された多様な価値観から道徳的課題や価値にじっくりと向き合い、よりよい方向を模索する場を設定している。
⑨	評価の在り方と具体的な工夫	「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子」を個人内評価として丁寧に見取り、記述する様式や表現するための記録の蓄積方法を工夫している。
⑩		学習活動において生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかを重視している。

学び合い10 (特別活動)		
①	必要感・達成感のある題材(単元)	生徒の実態を把握し、生徒が興味・関心を持ち、意欲的に解決しようとする題材(単元)を設定している。
②	題材(単元)の目標・指導計画	生徒の実態に応じた題材(単元)の目標や指導計画を立てている。
③	集団活動・体験的な活動	集団活動や体験的な活動を意識した授業を行っている。
④	問題の発見	生徒が、よりよい学級や学校の生活づくりに関わる問題を見付ける場を設定している。
⑤	自分の考えをもつ	生徒が自分の考えや意見をもてるよう工夫している。
⑥	学習形態の工夫	目標や実態に応じたペア・グループ・全体等の適切な形態を取り入れている。
⑦	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑧	交流場面の設定	他と交流しながら、考えを広げたり、深めたりする場を設定している。
⑨	意思決定	集団決定または自己決定を行う場を設定している。
⑩	実践・振り返り	活動または実践の過程と成果について、目標を基に振り返る場を設定している。

学び合い10 (進路指導)		
①	指導計画の作成	発達段階に応じた資質や能力、態度が身につくよう計画している。
②	生徒理解と身につけさせる能力	キャリア教育の視点から、生徒の実態と課題を把握し、どの活動場面で「基礎的・汎用的能力」を身につけさせるか、指導計画に示している。
③	個の学びの設定	学習活動において、将来の生き方や進路について自分の考えや意見をもつことができるよう、個の学びを確かに設定している。
④	学び合いや発表のルールと方法	学び合いや発表の目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑤	体験的な活動とグループ活動	職場体験やグループ学習を通して、将来について自分の考えや意見をもったり、深めたりする活動を設定している。
⑥	教科・領域との横断的な学習	キャリア教育との関連をはかり、各教科、領域での学習内容と将来の自分の生き方に関わるよう、横断的な学習をしている。
⑦	学習環境の整備	図書館の資料やパソコン等のメディアを活用したり、校外で体験活動を展開したりするなど、学習環境を整備している。
⑧	振り返りの場の設定	自らの考えや意見の変容を述べたり、新たに見出した課題が今後の生き方とどのようにかわるのかを述べたりする振り返りの場を設定している。
⑨	地域・家庭・高等学校等との連携	生徒が、日常生活や社会とのかかわりの中で進路学習が展開できるよう、地域・家庭と進路先となる高等学校等と連携を図っている。
⑩	自己決定・自己実現	自分の将来について考え、自分の意思で進路を選択し、自己実現できるよう支援している。

### 学び合い10（総合的な学習の時間）

①	指導計画の工夫	小学校での取組を踏まえるとともに、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、目指す資質や能力、態度が身に付くように計画している。
②	課題設定	日常生活や実社会に目を向けて、生徒自らが、「ひと・もの・こと」と自分との関わりの中から課題を設定している。
③	個の学びの設定	学習活動において、自分の考えや意見をもつことができるよう、個の学びを確かに設定している。
④	体験的な活動の工夫	体験活動を探究的な学習の過程に位置付け、他者と協働して活動できるよう工夫している。
⑤	交流の場の設定	学習対象をより多面的・多角的に捉えたり、自分の考えや意見を深めたり広げたりする交流の場を設定している。
⑥	学習環境の整備	図書館やPC室などで資料やICTを活用したり、校外でのフィールドワークを展開したりするなど、学習環境を整備している。
⑦	地域・家庭との連携	生徒が、日常生活や実社会との関わりの中で学習活動を展開できるよう、地域や家庭と連携を図っている。
⑧	話し合いや発表のルールや方法	話し合いや発表の目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑨	追究や表現の仕方の工夫	情報の集め方や調べ方、整理や分析の仕方、まとめ方など、目的や相手に応じた追究や表現の仕方の具体例を示したり、経験させたりしている。
⑩	振り返りの場の設定	自らの考えや意見の変容を述べたり、新たに見いだした課題が今後の自分の生き方とどのように関わるのかを述べたりする振り返りの場を設定している。

### 学び合い10（学校保健）

①	指導目標・指導計画	中学生期の発育・発達や健康上の特性を把握した指導目標や指導計画を立てている。
②	生徒の実態把握	生徒の実態や問題点を把握して授業を構成している。
③	必要感のある課題設定	生徒が直面している問題の中で、自らの課題だと気づくことができる課題を提示している。
④	関わり合う場の設定	目的をもって、生徒同士関わり合う場を取り入れている。
⑤	自尊感情を高めあう場の設定	他者との関わりあいを通して、自分を大切に思う気持ち、お互いを尊重する気持ちを持たせている。
⑥	実践化への意欲づけ	理想の姿を描くことで、意思決定や行動選択をし、実践していこうとする意欲付けをしている。
⑦	家庭や地域との連携	学校でできること、なすべきことを明確化し、家庭や地域での実践を促している。
⑧	振り返り、内省の場の設定	生涯にわたって、自分の健康を管理していこうとする気持ちを持たせる。
⑨	各教科との関連	健康という共通の目標を目指して、他教科と連携をしている。
⑩	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。



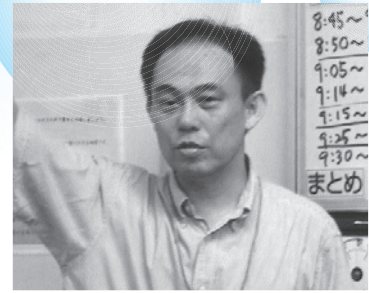
県中教研 15部会の重点方針

	重点方針
国語	<p>言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育てるために、話す・聞く、書く、読む力を育み、学ぶ意欲をもって学習する国語の学習指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学び合う言語活動を通して、考えを広げたり深めたりし、思考力や想像力を育てる。</li> <li>○考えを明確にし、構成を考えて文章を書く力を育てる。</li> <li>○話の内容や意図に応じた表現力を育てる。</li> <li>○目的に応じて主体的に文章を読み、内容を的確に読み取る力を育てる。</li> </ul>
社会	<p>自ら考え自ら学び、確かな学力を育てる社会科の学習指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の学ぶ意欲を高めるために、主体的な学習を促す魅力ある「教材開発」や「単元構成の工夫」を行う。</li> <li>○学び合い深め合う学習を実現するために、適切な課題を設けて行う学習の充実を図り、小集団学習や話し合い活動を取り入れた「学習過程の改善」を行う。</li> <li>○資料を選択し活用して、自分の考えを記述・発表する力を育てる。</li> </ul>
数学	<p>数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識・技能の確かな習得を図るとともに、数学的な見方や考え方のよさを実感できるようにし、それらを活用して課題解決に主体的に取り組める学習指導の展開に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎・基本の習熟を図るとともに、それらを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力を育成する。</li> <li>○生徒の認識とのずれや適度な困難度がある課題で学び合う学習を計画的に実施する。</li> <li>○生徒自らが学習の振り返りができるよう、学び直しの機会を設ける。</li> </ul>
理科	<p>目的意識をもって科学的に自然を調べる能力と科学的な思考力を育てる学習活動の展開に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○観察や実験の予想を検討したり、結果を整理し考察・吟味する学習活動の充実を図ることを通して、目的意識に裏打ちされた科学的な思考力、表現力を高める。</li> <li>○他者との関わりや問題解決的な活動を展開することを通して、科学的な見方・考え方を育てる。</li> <li>○地域の環境や学校の実態を生かした自然体験、科学的な体験を通じた実感を重視し、自然事象の認識と科学への興味、関心を一層高める。</li> </ul>
音楽	<p>生涯にわたって音楽に親しむ生徒を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽のよさを感じ、伝え、関わりあいながら学び、考える授業を展開する。</li> <li>○音楽を形づくっている要素を支えとして、思いや意図をもって表現する生徒を育てる。</li> </ul>
美術	<p>生涯にわたり、美術を生活に取り入れれたり、楽しんだりする生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域にかかわる「人・もの・こと・自然」を活用した授業を取り入れる。</li> <li>○対話のある授業によって、思考を働かせ、発想力が高まったり、お互いの考えを認め合ったりする生徒を育てる。</li> </ul>
保健体育	<p>運動や健康・安全についての理解を深め、体力の向上と健康の保持増進のための実践力を身につけるとともに、各種運動の合理的な実践をおとし、生涯にわたって運動に親しむ資質と能力を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の実態把握を的確に行う。</li> <li>○学習過程を工夫する。</li> <li>○学習資料提示の仕方を工夫する。</li> <li>○評価方法の工夫・改善を図り、指導に生かす。</li> <li>○運動を通して公正さや協力する態度を育てる。</li> </ul>
技術・家庭	<p>実践的・体験的な学習活動を通して基礎的・基本的な知識及び技術を身に付けるとともに、学習したことを生かして、よりよい生活、社会を目指そうとする能力と態度の育成に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活実態や社会状況を適切に把握し、学習意欲を高め、生活との関連を重視した指導計画や教材開発に努める。</li> <li>○学習結果や技術と家庭や社会との望ましい関係等について、自分の考えを発表したり、話し合ったりする活動場面を設定する。</li> </ul>

	重点方針
英語	<p>基礎・基本の確かな定着を図るとともに、コミュニケーション能力の基礎を培う学習指導を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4領域のバランスのとれた指導に努め、まとまりのある英語を理解したり、表現したりする活動を進める。</li> <li>○語彙や文構造については、コミュニケーションを支えるものとしての視点から言語活動を関連させながら定着を図る。</li> <li>○身近な言語の使用場面や言語の働きに配慮した言語活動の実践に努める。</li> <li>○小学校の外国語活動に関する小中の連携を深め、小学校における活動内容について情報交換するなど、中学校区ごとに研修をすすめる。</li> </ul>
道徳	<p>道徳的諸価値についての理解と自覚を深める手立てを講じ、よりよい生き方を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「考え、議論する道徳」に向けて求められる質の高い多様な指導方法を展開し、量的確保と質的転換を図り、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。①登場人物への自我関与が中心の学習、②問題解決的な学習、③道徳的行為に関する体験的な学習等のそれぞれの要素を組み合わせた指導も可。</li> <li>○ファシリテーション等で多面的・多角的に考えを拡散し、フレームワーク(思考ツール)で生徒の考えを可視化(構造化)し、道徳的価値の理解や自覚を深め、納得解・最適解を得る手立てを講じる。</li> <li>○自分や学びにじっくりと向き合い、自覚を深め、よりよい生き方を考えて道徳性を養う。</li> </ul>
特別活動	<p>望ましい人間関係を築き、集団や社会の一員として、よりよい集団生活を実現する生徒を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校における集団活動や体験的な活動の一層の充実を図る。</li> <li>○自分の考えを発表したり、他と交流したりしながら、考えを広げたり、深めたりする場を設定する。</li> </ul>
生徒指導	<p>いじめや問題行動、不登校の未然防止と早期発見・早期対応に努めるため、組織的・計画的な生徒指導を推進する。その際、対応のみに終始することなく、自他の個性を尊重し、生徒が互いに認め合い、協力し合うよりよい人間関係の構築を目指し、生徒の自己指導能力と社会性の育成を基盤とした生徒指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめは対人関係における問題との視点に立ち、全教育活動を通じて人権感覚を養うとともに、生徒主体の社会性育成活動を実施し、明確な指導方針のもとに組織的な取組を進める。</li> <li>○すべての生徒にとって居心地のよい学校を目指し、将来の社会的自立に向けた生き方支援に努める。特に生命や性、携帯電話等にかかわる今日的な問題については、家庭や地域、関係機関とも連携した粘り強い取組を進める。</li> <li>○中学校区の小学校及び関係機関との情報交換や行動連携に努め、自然体験や社会奉仕体験、職業体験などによる地域社会との関わりを通して、自律性や主体性を育む。</li> </ul>
進路指導	<p>自らの生き方を考え、夢や希望をもって主体的に進路を選択できる生徒を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自己理解を深めさせる指導を充実させる。</li> <li>○生徒一人一人の将来に対する目的意識を高め、自己実現を図ろうとする態度を育てる。</li> <li>○勤労観・職業観を育むキャリア教育の充実を図る。</li> </ul>
総合	<p>学習過程と評価を中核に、主体的・対話的で深い学びが実現できるような学習指導を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習過程において、「課題設定」を工夫し、「協働的な学習」と「言語活動」を適切に位置付けることを通して、探究的な学習の充実を図る。</li> <li>○「育てようとする資質や能力及び態度」の視点に配慮した評価の観点を定め、それに基づいて生徒の具体的な学習状況を想定した評価規準を設定し、学習評価の充実を図る。</li> </ul>
学校保健	<p>生きる力を育む健康教育を推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○連携・協働しながら組織的に取り組む健康教育活動を展開する。</li> <li>○生徒の健康管理能力を育成するための養護教諭の支援の在り方について研修をすすめる。</li> </ul>

# 学び合う授業をつくる ために必要な研究・研修

## 学びのプロセスと FTの基本プロセス



新潟県中学校教育研究会  
事務局長 山内 伸二

### 学び合う授業をつくるために必要な研究・研修

#### 学び合う授業とは？

学び合う授業は「教え合い」「交流」「検討」の学び合いを授業に取り入れることで論理的・批判的思考能力、問題発見・解決能力、コミュニケーション能力等の汎用的な能力の育成を目指す授業です。平成25年度の創設50周年記念事業を節目に一斉・講義中心型授業の延長線での“授業改善”ではなく、この学び合う授業による“授業改革”を全県に進め、教科・領域での具現化を目指して研究を推進してきました。

新しい学習指導要領の「どのように学ぶか」で示されている「主体的・対話的で深い学び」と目指すことと同じであると捉えています。

#### 教師が身につけたい知識（スキル）

教科・領域の「内容」の習得を中心とする教育から、「資質・能力」を基盤とする教育への転換に向けて、教師はどのような知識・スキルを高めればよいのでしょうか。

教科や領域の「内容」の習得が中心の場合、研究や研修は、図1のAの教科・領域の内容に関する知識に関するものでした。いわゆる「教材研究」と呼ばれるものです。しかし、「資質・能力」を基盤とする教育に転換すると、図1のBの生徒の既有的知識、認知や理解の傾向、素朴概念等の生徒に関する知識と図1のCの指導方法に関する知識の2つを加えた研究や研修が

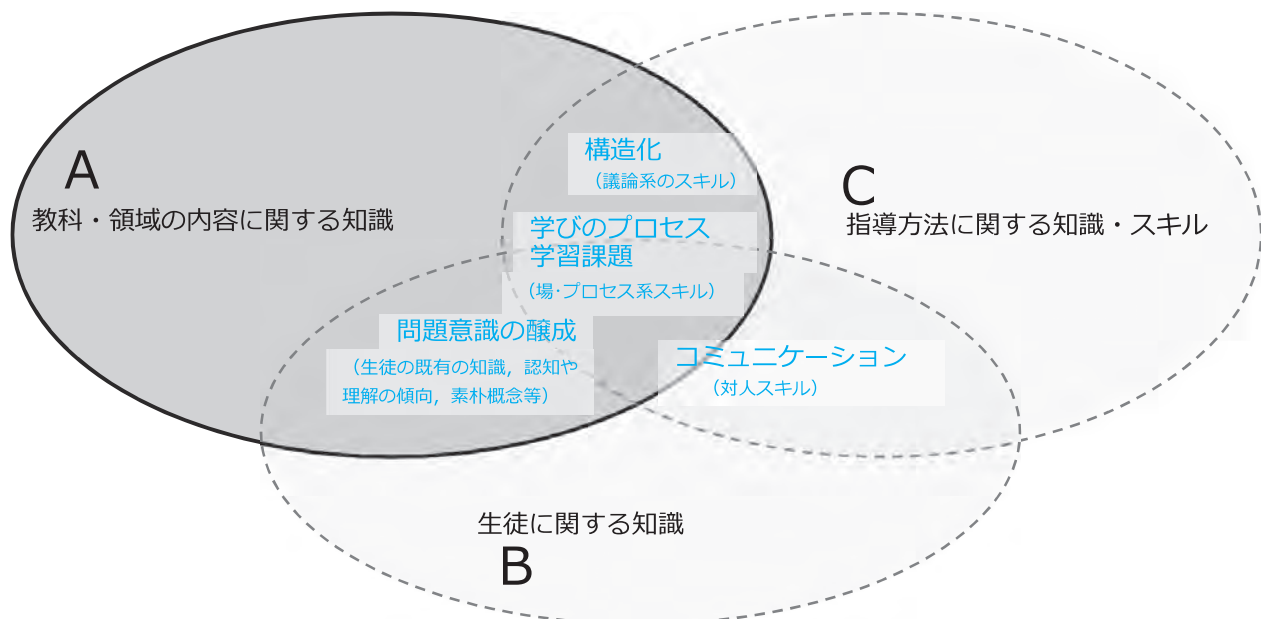


図1 授業についての知識・スキルの領域

吉崎静夫（1987）『授業研究と教師教育(1)～教師の知識研究を媒介として～』教育方法学研究.13:11-17をもとに再構成

必要になります。

学び合う授業(主体的・対話的で深い学び)は、教科・領域の本質である「見方・考え方」を仲立ちに、教科・領域の「内容」と汎用的な「資質・能力」を結び付け、一体化した育成を目指します。

したがって、教師が教え、ドリルで習得するという学習ではなく、現実に近い状況や文脈での問題解決等を通じた学習をデザインし、生徒がその学習プロセスを通して学ぶことで、現実の問題の解決するに生きて働く「内容」の深い学びと、汎用的な「資質・能力」をともに高める学びが実現します。

この学びのプロセスでは生徒の考えとのずれ

等を示すなどで問題意識を醸成させることが必要であり、図1のBの生徒の既存の知識、認知や理解の傾向、素朴概念等を教師が研究・研修する必要があります。

また、多様な考えを持つ生徒の考えをどのように引き出し、そして、どのように整理して、問題を解決するかといった図1のCの指導方法に関する知識・スキルの研究・研修は不可欠です。これは、ファシリテーション(FTと略す)の対人スキルと論理スキルを利用することが有効です。

A・B・Cの3円の重なった部分が学び合う授業づくりで大切であり、教師は全体をトータルに研究・研修していく必要があります。

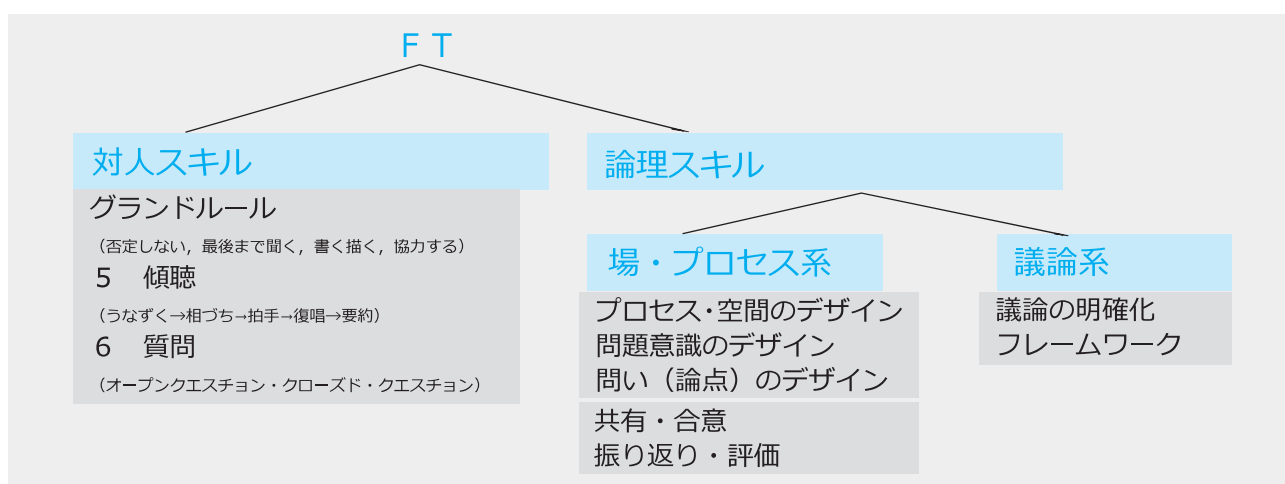


図2 FTのスキル

## 学びのプロセスとFTの基本プロセス

### FTとは？

ファシリテーション

FTとは「集団による問題解決、アイデア創造、合意形成などあらゆる知識創造活動を支援促進する働き」です。「問いを立て、集団で答えを得る」際の会議や授業でそれを促進させる考え方やスキルの集合体です。ただ、答えはいわゆる教科書に書かれているような正解を得るためではなく、最適解とか納得解と呼ばれる答えを創り出すときの手法といえます。

図2のように、対人スキルと論理スキルがあり、論理スキルも場・プロセス系の論理スキルと、議論を噛み合わせたり、議論を促進・整理したりする議論系の論理スキルに別れます。

### 基本プロセスと授業・単元

FTの基本プロセスは、図3のように個で考え、個の考えを出し合い、拡散する場面をつくり、多様に出た考えを、次に構造化し整理する場面をつくり、個に返したり、次に活用したりする、拡散→構造化にきちっとわけ、議論全体を可視化します。

この基本プロセスを1時間の授業のプロセスと誤解する場合があります。基本プロセスは「1つの話し合いの場面のプロセス」ととらえてください。

授業づくりをする場合、単元や小単元の単位で「学びプロセス」をデザインします。学び合

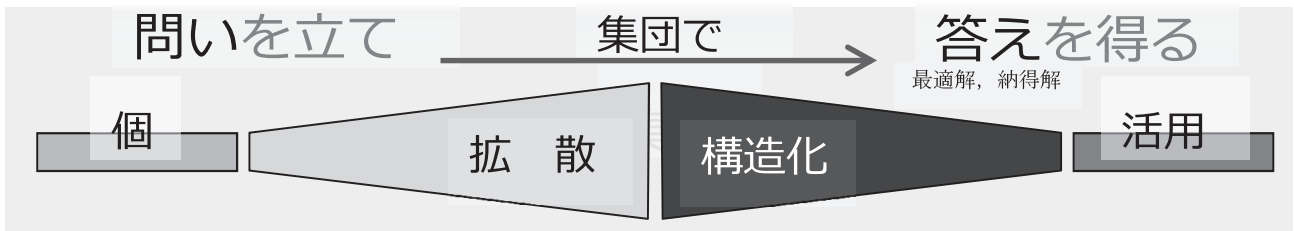


図3 FTの基本プロセス

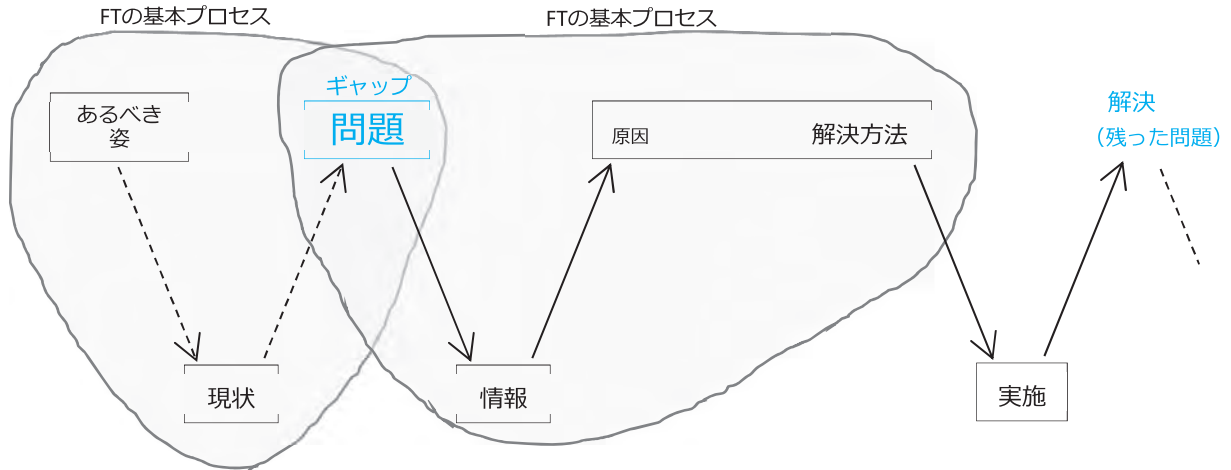


図4 問題解決のプロセス

※ W型問題解決モデルは「川喜田次郎(1967)発想法 中公新書」を参考に改良

う授業（主体的・対話的で深い学び）は現実に近い状況や文脈での問題解決等を通した学習をデザインすることが必要です。図4は問題解決のプロセスで、問題解決の「問題」とはあるべき姿と現状とのギャップを指します。たとえば、理科で「スチールウール燃焼後の質量はどうなるか？」と問うと、軽くなると予想します。しかし、実際に実験すると重くなり「なぜ」という問題意識が生じます。問題意識を醸成し、共有する場面で“話し合い”をデザインする場合、そこでFTの基本プロセスをおこないます。問題が明確になり、共有されれば、「なぜ、スチールウールは燃焼後重くなったのか？」の問いにつながるので、それを解決する次の“話し合い”にFTの基本プロセスを当てはめるとい感じです。

単元の学習プロセスをデザインする場合は、単元が1つの問題解決サイクルだったり、複数の問題解決サイクルを繰り返したりします。

また、図4のモデル図では「問題」を1回の“FTの基本プロセスで特定し、共有を図っています。しかし、現状を把握するFTと目標を設定する

FTを分け、その後、解決策を出し合うFTと分ける場合もあります。また、原因と解決方法をまとめて話し合うモデル図ですが、原因を特定するFTの基本プロセスをおこない、その後、解決方法を考えるFTの基本プロセスをおこなうという場合もあり、授業づくりの際は、FTの基本プロセスを、結合したり、分離したりなどを状況に応じてデザインする必要があります。

#### 学びのプロセスの種類と生徒のもつズレ

本冊子の特別寄稿をいただいた田村 学先生は、「問題を解決するプロセス」、「解釈し考えを形成するプロセス」、「着想し創造するプロセス」など教科固有のプロセスを充実する（P.9）と述べています。

単元を構想し、授業をつくるという学びのプロセスをデザインする場合、あるべき姿と現状のギャップなど「生徒がもつズレ」をどのように提示するか、学びのプロセスのどこでFTの基本プロセスをおこなうか、その際、どのような「問い」にして提示するかが大切になります。

# 編集後記



新潟県中学校教育研究会

理事長 玉木 浩(新潟市立白根北中学校 校長)

## これからの「学び合う授業」の課題と方向性

平成28年10月20日に「授業情報誌Class」第2弾を発刊したところ、一昨年同様に県内の県中教研会員をはじめ教育関係機関においても大きな反響となりました。このたび、多くの会員の要望に応えるとともに、会員皆様のご理解とご協力を得て、県中教研では「授業情報誌Class」第3弾を発刊する運びとなりました。いよいよ第3弾です。

この第3弾の「授業情報誌Class」には、これまでの「授業情報誌Class」第1弾・第2弾の成果を踏まえ、4点について改善を加えています。

- ① 研究会当日の授業がよりイメージできるようにしました。
- ② 「手立て」がステップごとに、より明確になりました。
- ③ 各教科・領域のキャッチフレーズが鋭角になるようにしました。
- ④ 前の指定研究での成果を継承し、課題としてあげられたことは課題を解決すべく方策を立てるようにしました。

さらに、次期学習指導要領をにらんで、國學院大學人間開発学部教授 田村 学 先生より、『対話的な学び』の質的向上』と題して特別寄稿をいただくとともに、これまでの県中教研4年間の取組についての総括的な意味合いで、「対話的な学び」をいかに質の高いものとして実現していくかについて貴重な提案をいただきました。今後の学び合う授業を推進していくうえでも何度も熟読しておきたいものです。

県中教研は、『学び合う授業』の創造』を掲げて5年目を迎えました。研究実践を重ねていく中で、各全県部長をはじめ指導者からも若干の指摘をいただいております。

- ① 学び合う授業が形骸化してきているのではないか
- ② 学び合う授業において拡散後の構造化(収束)問題が依然として解決されていない
- ③ 学び合う授業において成果は本当に上がっているのか、学力の向上に結びついているのか

これらの指摘に対して、各研究実践校においては様々な角度から検討し、少しでも解決のヒントとなりえる研究が進められてきたこと、構想シートでの練り上げを重要視したこと、プレ授業を何度も積み重ねたこと等を通して試行錯誤してきたと聞いています。今年度の研究において、これらの課題が少しでも解決への道が見えてくるようであれば幸いです。

最後に、「授業情報誌Class」の編集にあたり、編集に関わった事務局、貴重な原稿をいただいた各全県部長・副部長、各指定研究校の皆さん、各研究推進委員の皆さんに感謝申し上げ、編集後記といたします。

# 新潟県中学校教育研究会

新潟県中学校教員を会員とする教育研究団体です。昭和38年度発足し、創設54年目を迎えました。

県中教研は県下に19の郡市中教研があり、また、15の教科・領域の部があります。その中から毎年20の郡市と教科・領域を指定し、2年間で学び合う授業の具現化を目指し研究する「指定研究」を行っています。

## 授業情報誌

## Class・学び合う授業 第3号

発行日 平成29年10月16日

発行者 新潟県中学校教育研究会 事務局  
〒950-0908 新潟市中央区幸西3-3-2  
じょいあす新潟会館

TEL 025-290-2251 FAX 020-4664-3748  
E-mail ken-ckk@niigata-inet.or.jp  
<http://www.niigata-inet.or.jp/ken-ckk>

印刷 有限会社 東京プリント社

表紙写真 新潟市立白新中学校  
デザイン・イラスト 山内 伸二 (県中教研事務局)



ISSN 2189-8111